

## 第4章 形態論

この章では、形態素の分類と単語の形態について述べる。構成は以下のとおりである。

## 1 単語と形態素

## 1.1 語根

## 1.2 接辞

## 1.3 語根でも接辞でもない要素

## 2 語形成

## 2.1 接辞の付接

## 2.2 特に強い強勢の付加による派生

## 2.3 語基と派生語の語類の対応と統語的対応

## 2.4 重複

## 2.5 複合

## 1 単語と形態素

本記述では、単語を単独で文の構成要素のいずれか(補語、述部、副詞成分)になりうる形式と規定する。(文の構成要素については第5章で詳しく述べる。)

この言語の形態素の多くは、単独で単語として用いられる。このような形を自由語根と呼ぶ。自由語根は具体的な概念や事物を表す。

例：*kemang*「花」、*balong*「よい」、*ukér*「測る」

また、形態素のうち、自由語根と結びついて単語を形成しうるものを接辞と呼ぶ。

例：*bar-*(自動詞形成接辞)(ex. *bar-ukér*「測る」)

*sa-*(他動詞形成接辞)(ex. *sa-balong*「～を改善する」)

また、形態素の中には、自由語根と同様、具体的な概念や事物を表すが、自由語根とは異なり、単独では単語として用いられず、常に接辞とともに現れるものがある。このような形を拘束語根と呼ぶことにする。拘束語根はハイフンを付けて表示する。

例えば、*-langan* は単独では単語として用いられず、以下の派生語の一部として用いられる。

*ba-langan*「歩く」接頭辞 *bar-+langan* (*ba-*は接頭辞 *bar-*の異形態)

*sa-langan*「動かす、歩かせる」(接頭辞 *sa-* + *-langan*)

単語には、自由語根がそのまま現れる形、接辞の付いた形の他に、一つの語根が重複した形(重複語)、二つ以上の単語等からなる形(複合語)がある。それぞれのプロセスについて

は、第2節で述べる。

### 1.1 語根

#### 自由語根

語根のほとんどは自由語根である。本稿では、自由語根について、それがそのままの形で用いられる場合の単語の品詞に応じて、名詞語根、動詞語根などと呼ぶことにする<sup>1</sup>。

名詞語根の例：*asu'*「犬」、*kemang*「花」

動詞語根の例：*gera'*「美しい」、*rango'*「大きい」、*maté*「死ぬ」、*teri'*「落ちる」、*kakan'*「食べる」

自由語根の中には、名詞語根としても他動詞語根としても用いられるものがある。

例えば、語根 *bola* は、「嘘」を表す名詞としても、「～に嘘をつく」という意味を表す他動詞としても用いられる。このような場合、名詞と他動詞の意味的対応は主に次の二種類に分類できる。

[1] 名詞が道具を指し、動詞がそれを用いて他者に影響を与える動作を表す場合

語根	名詞としての意味	他動詞としての意味
<i>sapu</i>	ほうき	～を掃く
<i>takar</i>	はかり	～を量る
<i>tèar</i>	やり	～を槍で突く

[2] 名詞が他動詞の表す動作によって出現するものを表す場合

語根	名詞としての意味	他動詞としての意味
<i>bagi</i>	部分	～を分ける、分配する
<i>bakat</i>	傷	～を傷つける
<i>bola</i>	嘘	～に嘘をつく
<i>ipi</i>	夢	～の夢を見る
<i>isi'</i>	中身、肉	～に入れる
<i>tutér</i>	物語	～を相手に物語る
<i>uta'</i>	嘔吐物	～を吐く

また「性質、状態」を表す語根は、その性質のほなはだしさを表す動詞としても、その性質自体を表す名詞としても用いられる。たとえば、大きいという性質を表す単語 *rango'* は、そのままの形で「大きさ」を表す名詞としても用いられる。(1)は *rango'* が「大きさ」を表す名詞として用いられている例である。

1 本記述では、名詞、動詞、副詞、指示詞、人称詞、数量詞の六種類の品詞を区別する。第3章の註1で述べたように、ここで動詞として扱うものには、日本語の形容詞または形容動詞に相当するような静的な状況を表すものも含まれる。

## 4.1 単語と形態素

- (1) *nongka mu=to' rango' ku.*  
NEG.PERF 2SG.LOW.AFFIX=know big 1SG.LOW.AFFIX  
「おまえは私の偉大さを知らないのか。」

### 拘束語根

拘束語根は数が少ない。主なものをそれを含む単語とともに挙げる。既に述べたように拘束語根はそのままで文中に現れることはない。

- tangés nangés* (<鼻音接頭辞 *N-+tangés*) 「泣く」
- langan be-langan* (<接頭辞 *bar-+langan*) 「歩く」  
*sa-langan* (<接頭辞 *sa-+langan*) 「歩かせる」
- rari be-rari'* (<接頭辞 *bar-+rari'*) 「走る」  
*sa-rari'* (<接頭辞 *sa-+rari'*) 「走らせる」
- kedèk ba-kedèk* (<接頭辞 *bar-+kedèk*) 「遊ぶ」
- lupa' ka-lupa'* (<接頭辞 *ka-+lupa'*) 「忘れる」  
*sa-lupa'* (<接頭辞 *sa-+lupa'*) 「忘れさせる」
- renang berenang* (<接頭辞 *bar-+renang*) 「休息する」  
*pa-renang* (<接頭辞 *paN-+renang*) 「休息时间」
- surak ba-surak* (<接頭辞 *bar-+surak*) 「叫ぶ」  
*pa-surak* (<接頭辞 *paN-+surak*) 「叫び声、叫び方」

## 1.2 接辞

接辞はすべて接頭辞である。接中辞、接尾辞はない。

接頭辞には以下のものがある。(この章内での参照箇所をカッコ内に入れて示した。)

### [1] 他動詞を派生する接頭辞

- ・ *sa-*(例: *sa-teri'* 「落とす」 < *teri'* 「落ちる」)(2.1.1)

### [2] 自動詞を派生する接頭辞

- ・ 鼻音接頭辞 *N-* [*N*の現れ方については後で述べる。](2.1.2)  
(例: *mongka'* 「ご飯を炊く」 < *bongka'* 「ご飯を炊く」)
- ・ *bar-* (例: *bar-itóng'* 「勘定をする」 < *itóng'* 「数える」)(2.1.3)
- ・ *ka-/ geN<sup>2</sup>-* [*N<sup>2</sup>*の現れ方については後で述べる。](2.1.4)  
(例: *gem-panas* 「暑がる」 < *panas* 「暑い」, *ka-susa'* 「心配する」 < *susa'* 「大変だ」)

### [3] 名詞を派生する接頭辞

- ・ *ka<sup>-1</sup>* (例: *ka-guru* 「かつての先生」 < *guru* 「先生」)(2.1.6)
- ・ *ka<sup>-2</sup>* (例: *ka-tokal* 「居場所」 < *tokal* 「座る」)(2.1.7)
- ・ *paN-* (例: *pange-to'* 「知識」 < *to'* 「知る」)(2.1.8)
- ・ *sa-* (例: *sa-tau* 「一人」 (< *tau* 「人」))(2.1.9)

## 4.1 単語と形態素

### [4] 副詞を派生する接頭辞

- ・接頭辞 *sa-*(例: *sa-puan* 「昔」 (<*puan* 「明後日」))(2.1.10)

### 1.3 接辞でも語根でもない要素

形態素の中には、単独で単語を形成することがなく(1の冒頭の定義に沿っていえば単独で文の成分となることがなく)、また、原則として、他の要素と単語を構成することもないものがある。これらの要素には以下のものがある。(個々の要素については次章以降で扱う。参照箇所をカッコ内に入れて示した。)

#### [1] 名詞句内に現れるもの

- ・人を指す固有名詞に付接し、その性別を示す小辞  
*nya* 男性 (三人称代名詞と同形)、*si* (原則として) 女性  
(詳細は第5章 2.2 で述べる。)
- ・名詞節形成詞 *adè* (縮約形 *dè*) (第5章 8.1)、*lók* (第5章 8.2)
- ・人称辞 (第5章 2.3)(人称辞は、[3]の述部内にも現れる。(第5章 6.2))
- ・属格人称詞 (第5章 2.3)

#### [2] 前置詞 (第5章 4)

#### [3] 述部を構成するもの

- ・アスペクト・モダル辞 *ka* 「完了」、*ya* 「先行する状況との結びつき」、*ma* 「願望」、*na* 「ある状況が成立しないことへの願望」(第5章 6.2) (第6章 1)
- ・否定詞 *nó*, *siong'* (第5章 10.1)、(第6章 2)
- ・連用詞 *laló'*, *benar*(いずれも動詞のあらゆる性質の程度がはなはだしいことを示す。  
例: *kotar=laló'* 「速すぎる」、*kotar=benar* 「本当に速い」)(第5章 6.2)

#### [4] 文成分(述部、補語、副詞成分)の後や文末に現れるもの

- ・限定詞 *baè* 「～だけ」(第5章 10.2)
- ・叙法辞 *ké'* 「不確定」、*mo* 「起動・妥当」、*po* 「必要な条件」、*si* 「対比」  
(第5章 10.3、第7章)

#### [5] 接続詞(第8章 6)

### 強勢

上記の要素には、単語同様の強勢を伴って発話されうるものとそうでないものがある。また、強勢を伴って発話されうるものの中には、常に強勢を持って発話されるものと、条件によって強勢を持たないで発話されるものがある。

#### (a) 常に強勢を持って発話されるもの

属格人称詞、否定詞 *nó*、*siong'*、モダル辞 *na*、叙法辞 *ké'*、限定詞、連用詞

#### (b) 強勢を持って発話される場合とそうでない場合があるもの

- ・鼻音前置詞(後述)以外の前置詞、接続詞

#### 4.1 単語と形態素

(語調、発話のスピードによって強勢が置かれたり置かれなかったりする。)

- ・アスペクト辞 *ka*、モダル辞 *ma*(叙法辞が後に来る場合は強勢が置かれるが、そうでない場合は強勢が置かれない。)

(c) 常に強勢を持たずに発話されるもの

- ・人称辞 *ku*(一人称単数)、*mu*(2人称単数)、*tu*(1人称複数)
- ・モダル辞 *ya*
- ・叙法辞 *mo*「起動、妥当」、*po*「必要な条件」、*si*「対比」

(c)の常に強勢を持たずに発話される要素は、自然な発話においては母音の落ちた子音だけの形で発話されることもある。以下に例を示す。一行目の *m* は叙法辞 *mo*(起動、妥当)の母音の落ちた形、二行目の *t* は人称辞 *tu*(1人称複数)の母音の落ちた形である。(それぞれの形を元の形に置き換えた文も容認され、意味にも違いが生じない。)

(2) *beru'*      *ka*      *m=tu=kukés*      *né,*  
 just.after    PERF    MM(mo)=1PL.AFFIX=steam      you know

*ba=t=tedéng*      *sugan,*    *na.*  
 interj=1PL.AFFIX(tu)=put on a stove    pan      you see

「(米を水につける。それから、米を蒸す。)米を蒸したらすぐ(米が蒸しあがったらすぐ)、フライパンを火にかける。」[wajik 003]

#### 鼻音前置詞 *N* の形

前置詞のうち、場所を表す鼻音前置詞は、後続する名詞句の最初の音と音節を形成する。この前置詞は *ng* が基本形であるが、後続名詞が軟口蓋以外の子音ではじまる場合はその子音にもっとも調音位置の近い鼻音が現れる。

- ・後続する名詞のが母音または軟口蓋の子音で始まる例

例：*ng=orong'*「田(*orong'*)で」、*ng=endèng'*「隣(*endèng'*)で」、*ng=kota*(「街(*kota*)で」)

- ・後続する名詞が軟口蓋以外の子音で始まる例

例：*m=balé*「家(*balé*)で」、*n=sekola*「学校(*sekola*)で」、

## 4.2 語形成

### 2 語形成

1で述べたように、スンバワ語の語形成には、接辞による派生、強い強勢の付加、重複、複合の四種類がある。2.1で接辞の付接を、2.2で特に強い強勢の付加を扱った後、2.3でそれぞれについて語基と派生語の統語的対応のまとめを行う。さらに、2.4で重複を、2.5で複合をそれぞれ扱う。

#### 2.1 接辞の付接

1.2で触れたように、派生接辞には以下のものがある。以下の部分では個々の接辞について、その派生プロセスを記述する。(かっこ内に、この節内でそれぞれの接辞を扱う個所を示す。)

- [1] 他動詞を形成する接辞 *sa-* (2.1.1)
- [2] 自動詞を形成する鼻音接頭辞 *N-* (2.1.2), 接辞 *bar-* (2.1.3), *ka-/ geN<sup>2</sup>-* (2.1.4),
- [3] 名詞を形成する接辞 *ka<sup>-1</sup>* (2.1.6), *ka<sup>-2</sup>* (2.1.7), *paN-* (2.1.8), *sa-* (2.1.9)
- [4] 副詞を形成する接辞 *sa-* (2.1.10)

#### 接辞中の *a* 音の弱化、脱落

鼻音接頭辞以外の接辞は、すべて母音 *a* を含む。この母音は話者に接辞を単独で発音するよう求めた場合は常に *a* 音で発音されるが、それを含む単語中では *a* 音と *e* 音(中舌母音)の自由交代の形で現れる。(たとえば、接頭辞 *sa-* が付いた形 *sa-teri* は、単語を抜き出してゆっくりと発話する場合には *sa-teri* と発音され、通常の会話中では *se-teri* と発音される。)

また、接辞を含む単語の中には、接辞中の *a* 音が義務的に *e* 音(中舌母音)で現れるものがある。

- 例：*sesuda* 「～の後に」(*sa-* (他動詞を派生する接辞) + *suda* 「～を終える」)、  
*semenét* 「一分」(*sa-* (名詞を派生する接辞) + *menét* 「分」)

特に、語基が *r* または *l* ではじまる場合は接辞中の *a* 音が義務的に *e* 音で現れることが多い。また、*a* 音が脱落しているものがある。そのような単語には以下のものがある。

#### 接辞中の *a* 音が義務的に *e* 音で現れるもの

- berari* 「走る」(*ba+-rari*)  
*ketakét* 「こわがる」(*ka+takét* 「人を怖がらせるような性質を持つ」)

#### 接辞中の *a* 音が脱落しているもの

- brenang* 「休息する、止まる」(*ba+-renang*)  
*bléng* 「言う」(*ba+léng* 「ことば」)

### N、N<sup>2</sup>の現れ方

上記の接辞のうち、鼻音接頭辞と接頭辞 $paN-$ 、他動詞を派生する接頭辞 $sa-$ 、自動詞を派生する接頭辞 $ka-/geN^2-$ はいくつかの異形態を持つ。各接辞について、(代表形も含む)異形態間に共通する部分を不変部分、そうでない部分を可変部分と呼ぶことにする。たとえば接頭辞 $paN-$ は $pa, par, pam, pan, pang$ の5種類の形のいずれかで現れる。この場合、すべての形に共通する部分 $pa$ を不変部分、それ以外の部分を可変部分と呼ぶ。可変部分は $r$ または鼻音を含む。(これは、接頭辞 $paN-$ だけでなく、他の接辞に関しても同様である。)以下の部分では可変部文中の鼻音をまとめて $N$ と書くことにする。 $N$ の現れ方は、原則として接辞間で共通であり、語基の音節数および最初の音によって決まる。この点については後述する。

例外的に $geN^2-$ に現れる鼻音は他の接辞中に現れる鼻音 $N$ とはやや異なる現れ方をする。そのため、この接辞中の鼻音は $N^2$ と書いて、他の接辞中の鼻音と区別する。 $N$ と $N^2$ の違いについては後述する。

$N$ の分布は接辞ごとに異なる。接辞 $sa-$ 、接辞 $ka-$ は、不変部分のみの形( $sa-$ 、 $ka-$ )で現れる場合と可変部分を含んだ $saN-$ 、 $kaN-$ という形で現れる場合がある。接辞 $paN-$ として現れる形は、一部の例外を除いて、常に不変部分に可変部分を含んだ $pa+N$ という形で現れる。

また、鼻音接頭辞 $N-$ として現れる形は、不変部分を持たず、原則として可変部分 $N$ のみが現れる。

### Nの現れ方

上で触れたように、 $N$ は語基の音節数および最初の音によって $m, ng, ny, nge$ いずれかの形で現れる。 $N$ の分布は接辞ごとに異なるが、 $N$ が現れる環境において、上記のどの形で現れるかについての条件は、接辞間で共通している。条件を以下に挙げる。(ここでは鼻音接頭辞の例を挙げる。その他の接辞の例はそれぞれの接辞の項を参照されたい。)

(i) 語基が1音節の場合は、 $nge$ が付接する。

(この言語では、1音節の語根はすべて最初の音が子音である。)

例： $nge-jét$ 「縫う」 $<jét$ 「縫う」

(ii) 語基が2音節以上で、語基の最初の音が母音である場合は $ng$ が付接する。

例： $ng-inóm$ 「飲む」 $<inóm$ 「飲む」

(iii) 語基が2音節以上で、語基の最初の音が子音である場合は、原則として、その子音が調音位置が近い鼻音に置き換えられる。

・語頭音が唇音( $p$ または $b$ )の場合は、 $m$ に置き換えられる。

例： $mina'$ 「作る」 $<pina'$ 「作る」 $、bisó'$ 「洗う」 $<miso'$ 「洗う」

・語頭音が歯・歯茎閉鎖音( $t$ または $d$ )の場合は、 $n$ に置き換えられる。

例： $numpan'$ 「手に入れる」 $<tumpan'$ 「手に入れる」

・語頭音が $s$ の場合は、 $ny$ に置き換えられる。

(*s* に最も調音点が近い鼻音は *n* であるため、この点で、語頭音が *s* である場合の対応は例外的である。)

例： *nyólé'* 「借りる」 < *sólé'* 「借りる」

・語頭音が軟口蓋音(*g* または *k*)の場合は、*ng* に置き換えられる。

例 *ngiki* 「すりおろす」 < *kiki* 「すりおろす」、*ngoco* 「刺す」 < *goco* 「刺す」

語基の語頭音が流音 *l, r* である場合、*N*-は現れない

(ただし、可変部分 *N* のみからなる鼻音接頭辞は、*l, r* の前では *me-* という形で現れる。)

例： *me-lokèk* 「皮をむく」 < *lokèk* 「皮をむく」)

### *N*<sup>2</sup>の現れ方

*geN*<sup>2</sup>-の可変部分 *N*<sup>2</sup>-においても、語基に対して *N* と同様の対応を示す鼻音が現れる。ただし、その現れ方は *N*- と異なる。*N*- においては、語基の最初の音が脱落して鼻音と交代するが、*N*<sup>2</sup>- においては語基の最初の音は残ったままで対応する鼻音が付接する。

例： *gem-panas* 「暑くて不快である」 < *panas* 「(気候が)暑い」

*gen-tomas* 「うるさくて不快である」 < *tomas* 「うるさい」

以下の部分では個々の接辞についてその機能を述べる。

#### 2.1.1 他動詞を派生する接頭辞 *sa-*

##### 2.1.1.1 接頭辞 *sa-*の形態

この接辞は、語基が 1 音節の場合と、語基が 2 音節以上で語基の最初の音が母音である場合、異形態 *saN* を取る。( *N*- については、2.1 の冒頭で述べた。) 具体例を以下に挙げる。

(i) 語基が 1 音節の場合は *sange* が付接する。(この言語では、1 音節の語根はすべて最初の音が子音である。)

*sange-do'* 「遠ざける」 < *do'* 「遠い」

*sange-lè'* 「ゆっくり何かを行う」 < *lè'* 「遅い」

(ii) 語基が 2 音節以上で語基の最初の音が母音である場合は *sang* が付接する。

*sang-ètè'* 「結婚させる」 < *ètè'* 「取る」

*sang-iri* 「嫉妬させる」 < *iri* 「嫉妬する」

例外として、動詞 *entèk* 「上る」に接頭辞 *sa-* が付いた形は、期待される *sang-entèk* という形ではなく、*sentèk* 「持ち上げる」という形になる。

(iii) その他の場合

原則として、*sa* が現れる。

*sa-tokal* 「座らせる」 < *tokal* 「座る」

#### 4.2.1.1 他動詞を派生する接頭辞 *sa-*

*sa-guar* 「拡張する」 < *guar* 「広い」  
*sa-sedi* 「減らす」 < *sedi* 「少ない」

ただし、他動詞語根を語基とする場合は例外が多い。一部の語根に対しては *saN* が現れる。

(例) *sameri* ' 「人に何かを好きにならせる」 < *beri* ' 「好む」  
*sanadi* 「～にする」 < *dadi* 「～になる」  
*sanapat* 「届ける」 < *dapat* 「手に入れる」  
*sanyólé* ' 「借りる」 < *sólé* ' 「貸す」

また、*tari* 「待つ」が語基である場合は、 $N^2$ が現れ、*santari* 「容赦する」という形が派生される。

原則として、接頭辞 *sa-*は語根にのみ付接し、接頭辞の付いた単語には付接しない。ただし、接頭辞 *bar-*の付いた形に *sa-*が付接した形が許容される場合もある。以下は聞き取り調査の結果である。(どのような場合に *sa-*のついた形が許容されるのか、今の段階ではわからない。)

・許容されるもの：

*sa-ba-langan* 「歩かせる」 < *ba-langan* 「歩く」  
*sa-be-rari* ' 「走らせる」 < *be-rari* (*bar-* + *-rari*) ' 「走る」  
*sabrenang* 「止める」 < *brenang* (*bar-* + *-renang*) 「休息する」

・許容されないもの

\**sa-ba-surak* < *basurak* 「叫ぶ」  
\**sa-ba-dengan* < *ba-dengan* 「友達である、連れでいる」  
\**sa-ba-kedèk* < *ba-kedèk* 「遊ぶ」

#### 2.1.1.2 接頭辞 *sa-*の機能

接辞 *sa-*による派生の語基となりうるのは、拘束語根、名詞語根、自動詞語根、他動詞語根である。派生の結果形成される語はすべて他動詞である。

拘束語根、名詞語根が語基である例は限られている。データ中には以下の例がある。

[A] 拘束語根が語基である例

*sa-kèal* 「結び付ける」  
*sa-langan* 「歩かせる、動かす」  
*sa-lupa* ' 「忘れさせる」  
*sa-rari* ' 「走らせる、動かす」

## [B] 名詞が語基である例

派生形の動詞は語基の表す事柄を対象に伝達する、あるいは、付与するという意味を表す<sup>2</sup>。

- samaèng* 「与える」 < *baèng* 「所有権、所有者」  
*sa-bakat* 「傷つける、けがをさせる」 < *bakat* 「傷」  
*sa-bongkang* 「穴を開ける」 < *bongkang* 「穴」  
*sa-rungan* 「知らせる」 < *rungan* 「知らせ」  
*sa-singén* 「名付ける」 < *singén* 「名前」  
*sa-tegas* 「説明する」 < *tegas* 「意味」  
*sa-tutér* 「はなす、伝える」 < *tutér* 「話」

## [C] 動詞が語基である例

自動詞を語基とする例は多く、ほとんどすべての自動詞が接辞*sa-*による派生の語基となりうる。ただし、*sa-*はもはや生産性を持っておらず、比較的近年のマレー語からの借用であると考えられる語根が語基になることはない。たとえば、比較的近年のマレー語からの借用語に *gampan* 「簡単である」、*kaya* 「裕福である」がある。これらの語根に*sa-*を付けた形は容認されない<sup>3</sup>。

以下の部分では語基が自動詞である場合と他動詞である場合に分けて述べる。

## [C-1] 自動詞が語基である場合

自動詞を語基とする *sa-*形の動詞は、動作の対象を語基の自動詞が表す状態にする、動作の対象に語基の自動詞が表す動作を行わせる、という意味を表す。

自動詞を語基とする例をいくつか挙げる。

語基が状態を表す場合

- sa-dalap* 「深くする」 < *dalap* 「深い」  
*samampés* 「よいにおいをさせる」 < *mampés* 「よいにおいがする」  
*sa-tebal* 「厚くする」 < *tebal* 「厚い」  
*sang-ódé'* 「小さくする」 < *ódé'* 「小さい」  
*sa-rèa'* 「大きくする」 < *rèa'* 「大きい」

2 伝達、付与にかかわる動作が想定しやすいいくつかの名詞について、*sa-*の付接可能性を調べたが、いずれも付接が不可能であった。このことから、名詞を語基とする場合、*sa-*による派生は限られた語基についてしか起こらないことがわかる。

*sa-*の付接が認められなかった名詞を以下にあげる。

*kranté* 「話」、*arti* 「意味」、*boat* 「仕事」、*bekas* 「痕跡、跡」、*dengan* 「友人、連れ」  
 3 この二つの語根に意味的に対応するスンバワ語固有の語はそれぞれ *nyaman* 「楽である」、*sugi* 「裕福である」で、これらの語は接辞*sa-*による派生の語基となりうる。それぞれ *sa-nyaman* 「楽にする」、*sa-sugi* 「裕福にする」が派生される。

語基が動作を表す場合

*sa-tedu* 「止める、泊める」 < *tedu* 「泊まる、じっとしている」

*sa-goyang* 「揺らす」 < *goyang* 「揺れる」

*sa-bela'* 「割る」 < *bela'* 「割れる」

*sa-bèrèk* 「裂く」 < *bèrèk* 「裂ける」

状態を表す自動詞の中には、*sa-*をつけた形が話者に容認されないものもある。たとえば、以下の自動詞に *sa-*を付けた形は容認されない。

*sepi* 「にぎやかでない、静かである」<sub>1</sub>、*senap* 「涼しい」<sub>1</sub>、*glanggé* 「背が高い」

*uda'* 「果物などがまだ実っていない」<sub>1</sub>、*ubék* 「けちである」

これらの自動詞は、人やものが生来持っている性質を表す。一般に、このような性質を意図的にもたらずのは難しいため、これらの自動詞に接辞 *sa-*が付接した形の意味が想定しにくい。そのため、これらの語根を語基とした派生は容認されにくいのではないかと考えられる。

*sa-*による派生形他動詞の構文

接頭辞 *sa-*による派生形他動詞は、一般的な他動詞と同様の構文に現れる。この場合、使役者を表す語が主語として、被使役者を表す語が目的語として扱われる。(他動詞の構文および主語、目的語については第5章 6.4-6.5 で扱う。)

語基の自動詞 *tama* 「入る」の例を(3)に、派生形他動詞 *sa-tama* 「入れる」の例を(4)に示す。

(3) *ku=tama*                      *kó' dalam brang aku*  
1SG.LOW.AFFIX=enter to inside river 1SG.LOW

「私は川に入っていく。」

(4) *ku=sa-tama*                      *sisén kó' periók léng aku.*  
1SG.LOW.AFFIX=sa-enter ring to pot by 1SG.LOW

「私はつばに指輪を入れる。」

接頭辞 *sa-*の付いた動詞は、その表す状況が、使役者(前置詞 *léng* 句が表す要素、(4)では「私」)の働きかけによって、被使役者(目的語があらわす要素。(4)では「指輪」)の意志とは関係なく実現する場合に用いられる。このような意味的な制約があるため、*sa-*形動詞の文では、上の(4)のように、無生物など、意志を持たないものが被使役者として現れる場合が多い。

ただし、被使役者は常に無生物であるとは限らない。(5)(6)は自動詞 *lés* 「出る」とそれを語基とする他動詞 *se-lés* 「出す」の例で、(6)は使役者が有生物である例である。



- (I) 派生動詞が語基の他動詞の使役動詞として機能する場合  
(自動詞が語基の場合と同様の意味的対応を示す。)
- (II) 派生によって顕著な意味変化が生じない場合  
(派生動詞が語基の他動詞と同様の内容を表す。)

まず、(I)の「使役動詞」について扱う。

他動詞語根から派生された使役動詞は意味的に次の二種類に分類できる。

(a) 使役者がある個体 A によって間接的に被使役者にはたらきかける状況を表すもの。  
(典型的には「渡す」「貸す」などのもののやりとりを表す。以下の部分では個体 A を「媒介物」と呼ぶことにする。)

(b) 使役者が (a)に示したような媒介物なしで被使役者に直接はたらきかける状況を表すもの。

派生動詞が(a)(b)のいずれを表すかによって、それぞれが現れる構文が異なる。それぞれについて以下に例を示す。

(a)の「使役者が媒介物によって間接的に被使役者にはたらきかける状況」を表す動詞には以下のようなものがある。

*sanapat* 「届ける」 < *dapat* 「手に入れる」  
*sang-enti'* 「手につかませる、渡す」 < *enti'* 「つかむ」  
*sa-gita'* 「見せる」 < *gita'* 「見る」  
*sang-ingo'* 「見せる」 < *ingo'* 「見る」  
*sang-inóm* 「飲ませる」 < *inóm* 「飲む」  
*sa-kèngang'* 「着せる」 < *kèngang'* 「着る、使う」  
*sa-menong'* 「聞かせる」 < *menong'* 「聞く」  
*sa-pamóng'* 「(何かを鼻のところへ持って行って)においをかがせる」  
     < *pamóng'* 「においをかぐ」  
*sa-panto* 「見せる」 < *panto* 「見る、見物する」  
*sa-regam* 「手につかませる、渡す」 < *regam* 「つかむ」  
*sanyólé'* 「貸す」 < *sólé'* 「借りる」  
*satelan'* 「飲み込ませる」 < *telan'* 「飲み込む」  
*sange-to'* 「知らせる」 < *to'* 「知る、知っている」  
*sa-totang'* 「思い出させる」 < *totang'* 「おぼえている、思い出す」

以下に他動詞 *enti'* 「つかむ」を語基とする *sangenti'* 「手につかませる、渡す」の例を示す。

(7) *aku*            *ka=ku=enti'*                    *kerés=ta.*  
       1SG.LOW      PERF=1SG.LOW.AFFIX=**seize**      sword=this

されるのは、このことと関係があるものと思われる。

「私はこの剣を握っていた。」

(8) *aku ka=ku=sang-enti' kerés=ta kó' ima nya*  
 1SG.LOW PERF=1SG.LOW.AFFIX=sa-seize sword=this to hand 3

「私は彼の手はこの剣を握らせた。」

(8)における補語の現れ方を見ると、使役者 *aku* '1SG.LOW' が主語として現われ、被使役者 *ima nya* 「彼の手」は前置詞句補語(方向を表す前置詞 *kó'* の句)として現れている。また、使役者と被使役者の間の媒介物に相当するものが目的語として現れている。

(7)の語基の他動詞と(8)の *sa* 動詞の構文の意味的対応をみると、語基の他動詞の文の目的語 *kerés=ta* 「この剣」が、*sa* 動詞の文においても目的語に対応しているといえる。

この種の動詞の構文は、形態的に無標な語根形の他動詞のうち、*bèang'* 「与える」、*sempét* 「送る」など「もののやりとり」を表す動詞の構文と並行的に考えることができる<sup>6</sup>。これは、この種の「使役動詞」が、上記のもののやりとりを表す動詞と「媒介物」を持つという点で意味の共通点を持つことから自然に説明できる。(もののやりとりを表す動詞の構文については、第5章 6.7 で扱う。)

次に、(b) 「使役者が媒介物なしで被使役者に直接はたらきかける状況」を表す使役動詞について述べる。この種の動詞には以下のようなものがある。

*sameri'* 「魔法をかけて好意を持たせる」 < *beri'* 「好きである」  
*sange-ntok* 「待機させる、一定の場所に居させる」 < *ntok* 「～の番をする」  
*sa-pili'* 「任せる」 < *pili'* 「選ぶ」  
*sa-popo* 「魔法をかけさせる」 < *popo* 「魔法をかける」  
*sa-putar* 「回す」 < *putar* 「～のまわりを回る」  
*sanyelam* 「沈める」 < *selam* 「潜水して何かを取る」  
*san-tari* 「容赦する」 < *tari* 「待つ」  
*sang-udét* 「たばこを吸わせる」 < *udét* 「たばこを吸う」  
*sang-ètè'* 「結婚させる」 < *ètè'* 「取る」  
*sanadi* 「～にする」<sup>7</sup> < *dadi* 「～になる」

6 *bèang'* 「与える」の例を(a)に示す。やり取りされるものが目的語によって表され、やり取りの相手が前置詞句補語(前置詞 *kó'* の句)で現れるという点で(8)の使役動詞の文と対応している。

(a) *ka=ku=bèang' kerés=ta kó' nya.*  
 PERF=1SG.LOW.AFFIX=give sword=this to 3  
 「私は彼に剣を与えた。」

7 この動詞は2つの名詞句補語と共起するという点で、他の他動詞と異なる構文を取る。この動詞の構文については第5章 6.7 で扱う。

以下に語基の他動詞 *entok* 「～の番をする」と、そこから派生された他動詞 *sangentok* の例を示す。

(9) *tódé=nan entok balé=ta.*

child=that guard house=this

「その子はこの家の番をする。」

(10) *ku=sang-entok tódé=nan léng aku.*

1SG.LOW.AFFIX=make.wait child=that by 1SG.LOW

「私はその子を待機させる。」

(10)における補語の現れ方を見ると、使役者 *léng aku* ‘by+1SG.LOW’が主語として現われ、被使役者 *tódé=nan* 「その子」は目的語として現れている。

(9)(10)の対応をみると、語基の動詞の文における主語 *tódé=nan* 「その子」が派生動詞の文における目的語に意味的に対応している。語基の動詞における目的語 *balé=ta* に相当する要素は派生動詞の文においては現れていない。

このタイプの派生動詞は、語基の表す状況における動作の対象は視点の外に置くような意味を表す。このため語基の動詞の文の目的語に相当する要素が派生動詞の文には現れない。

次に、(II) 語基と派生動詞がほぼ同様の意味を表す場合を扱う。このような動詞には以下のようなものがある。

*sangantat* < *antat* 「連れて行く、持って行く」

*samolang* < *bolang* 「投げる、捨てる」

*sa-ganti* < *ganti* 「交換する」

*sa-gantong'*, *sangantong'* 「かける」 < *gantong'* 「かける」

*sang-isi'* 「入れる」 < *isi'* 「入れる」

*sa-panéng'* < *panéng'* 「水浴びをさせる」

*saméngkó'* < *péngkó'* 「(家畜、のりものなど)を方向転換させる」

*sa-talat* 「埋める」 < *talat* 「埋める」

*sa-telét* 「指し示す、指示する」 < *telét* 「指し示す」

*sa-tukar* < *tukar* 「交換する」

*sang-ulèng* < *ulèng* 「開ける」

## 2.1.2 自動詞を派生する鼻音接頭辞 *N-*

鼻音接頭辞 *N-*は自動詞を派生する接頭辞である。主に他動詞を語基とするが、拘束語根、

名詞が語基となる場合も少数確認されている。

#### 2.1.2.1 鼻音接頭辞の形態

この接頭辞は、語基の最初の音が *l* または *r* である場合をのぞいて、この項(2.1)の冒頭で述べた *N*(語基の音節数、最初の音によって形を変える鼻音)の形で現れる。具体例を以下に挙げる。

(i) 語基が1音節の場合、*nge* が付接する。(この言語では、1音節の語根はすべて最初の音が子音である。)

例：*nge-jét* 「縫う」 < *jét* 「縫う」

(ii) 語基が2音節以上で、語頭音が母音の場合、*ng* が付接する。

例：*ng-inóm* 「飲む」 < *inóm* 「飲む」

(iii) その他の場合

[a]原則として、子音が、鼻音 *m, n, ny, ng* のうち、調音位置が近いものに置き換えられる。

・語頭音が唇音(*p* または *b*)の場合、*m* に置き換えられる。

例：*mina'* 「作る」 < *pina'* 「作る」<sub>1</sub>、*miso'* 「洗う」 < *biso'* 「洗う」

・語頭音が歯音の場合、*n* に置き換えられる。( *d* で始まる語基にこの接辞が付く例は確認されていない。 )

例：*numpan'* 「手に入れる」 < *tumpan'* 「手に入れる」

・語頭音が歯茎音 *s* の場合、*ny* に置き換えられる。( *j, c* で始まる語基にこの接辞が付く例は確認されていない。 )

例：*nyólé'* 「借りる」 < *sólé'* 「借りる」

2.1 で触れたように、*s* に最も調音点が近い鼻音は *n* であるため、*ny* が現れるこの対応は例外的である。例外的に *n* が現れる例として、*sèsèk* 「織る」を語基とする *nèsèk* 「織物をする」が確認されている。

・語頭音が軟口蓋音(*g* または *k*)の場合、*ng* に置き換えられる。

例：*ngiki* 「すりおろす」 < *kiki* 「すりおろす」<sub>1</sub>、*ngoco* 「刺す」 < *goco* 「刺す」

[b] 語頭音が *l* または *r* の場合は *N* が現れず、*me* という形が現れる。

例：*me-lokèk* 「皮をむく」 < *lokèk* 「皮をむく」

*me-rempak* 「踏み付ける」 < *rempak* 「踏み付ける」

この接辞の形態については以下のような解釈が可能である。

鼻音接頭辞に機能の面に対応するマレー語の接辞に *meN-* (*N* は原則として語基の最初の音と調音位置が同じである鼻音) という形を持つものがある。(この接辞の機能については巻末の補遺で述べる。)鼻音接頭辞が *l* または *r* の前で *me* という形で現れることと考え合わせると、この接頭辞は歴史的にはマレー語に対応する *meN* という形を持っていたのが、最初の部分 *me* が脱落し、現在の形になったのではないかと推測される。

たとえば派生形 *nge-jét* 「縫う」 (< *jét* 「縫う」) は、元々は *menge-jét* という形、派生形 *mína'* 「作る」 (< *pína'* 「作る」) は元々は *memína'* という形であったのが、最初の部分 *me* の脱落によって現在の形になったのではないかと考えられる。

語基の語頭音が *l* または *r* である場合には、*me* が現れているが、この場合はこの接辞が *me* 以外の部分 (鼻音) を持たず、*me* が脱落すると語基と派生形との区別が保たれなくなるためではないかと考えられる。(たとえば派生形 *me-lokèk* 「皮をむく」 (< *lokèk* 「皮をむく」) から *me* が脱落すると語基との形の区別が保たれなくなる。)

なお、他の環境では現れる鼻音が、語基の語頭音が *l* または *r* である場合には現れないという現象は、マレー語の対応する形においても見られる。

#### 接頭辞の付いた形に鼻音接頭辞が付く場合

上に示したのはすべて鼻音接頭辞が語根に付接している例である。鼻音接頭辞は、接頭辞 *sa-* の付いた形に付接する場合もある。以下に例を示す。

*nyalés* 「出す」 < *sa-lés* 「出す」 (< *lés* 「出す」)

*nyentèk* 「持ち上げる」 < *s-entèk* 「持ち上げる」 (< *entèk* 「上る」)

#### 2.1.2.2 鼻音接頭辞の機能

派生語のほとんどは、一定の継続時間のある状況を表す。名詞、他動詞、拘束語根が鼻音接頭辞の語基となる。派生語はほとんどすべてが自動詞である<sup>8</sup>。

##### [A] 拘束語根が語基である場合

データ中では以下の2例である。

*nguléng'* 「横たわる」

(語基 *guléng* は、名詞 *galang-guléng* 「抱きまくら」の一部として確認されている。)

*nangés* 「泣く」

(語基 *tangés* は、複合語 *turén-tangés* 「みけん」の一部として確認されている。)

##### [B] 名詞が語基である場合

名詞が語基である例は限られており、データ中では以下の3例である。

*ngentén* 「ひざまづく」 < *entén* 「ひざ」

*ngentét* 「おならをする」 < *entét* 「おなら」

*nyurat* 「手紙を書く」 < *surat* 「手紙」

##### [C] 他動詞が語基である場合

<sup>8</sup> 例外として、他動詞 *bawa* 「運ぶ」の語頭音が鼻音化した形 *mawa* は「荷物」という意味の名詞として用いられる。





- (15) \**ya=ku=nginóm*                      *kawa=ta*  
 CONS=1SG.LOW.AFFIX=drink    coffee=this  
 (期待される意味)「私はこのコーヒーを飲むことにする。」

動作の対象を表す要素は、前置詞句補語の形で現れることがない<sup>11</sup>。

このような制約があるため、派生形の自動詞は、当該の発話において、動作の対象に言及する必要がない場合、つまり、発話の意図が、動作の種類の特定である場合や、動作の対象が動詞の意味や一般的な常識、まわりの状況などから明らかである場合に用いられるようである。

この種の自動詞は、その表す動作の対象が定であり（聞き手に了解されており）、それゆえ明示する必要がない場合には用いられない。例えば、動作の対象を表す語が、先行する文において既に現れている場合、自動詞は用いることができない。

(16)は物語「平たい石」からの引用で、早くご飯を食べさせてくれとせがむ子どもに対して、母親が述べたことばである。

- (16) (a) *ao'*, *anak é*, *ta muntu*                      *ku=nepé*.  
 yes    child oh this    PROGRESSIVE 1SG.LOW.AFFIX=winnow
- (b) *ka mo suda*    *ku=tuja'*                                      *padé=ta*.  
 PERF MM    finish    1SG.LOW.AFFIX=polish    rice plant=this
- (c) *ta muntu*                      *ku=tepé* (\**nepé*).  
 this    PROGRESSIVE    1SG.LOW.AFFIX=winnow

- (a) 「はいはい。私は今、**風選を行っている**(米と籾殻をよりわけている)ところだよ。」  
 (b) 「私はもう米をつき終えた。」  
 (c) 「今、**風選を行っている**ところだよ。」 [BL019-020]

(a)-(c)いずれの節が表す状況においても、動作の対象は、母親が炊こうとしている「米」である。(a)と(c)の表す状況は、いずれも、風選を行うという動作を含んでいる。この動作は(c)では他動詞 *tepé* で表されているのに対して、(a)では、その他動詞を語基とする自動詞

11 動作の対象を表す要素が道具や随伴者を表す前置詞 *ké'* の句で現れている文は容認されない。たとえば、(14)に対応する(a)のような文は容認されない。

- (a) \**ya=ku=nginóm*                      *ké' kawa=ta*  
 CONS=1SG.LOW.AFFIX=drink    with    coffee=this  
 (期待される意味)「私はこのコーヒーを飲むことにする。」

*nepé* で表されている。

(c)で他動詞 *tepé* と自動詞 *nepé* を置き換えた文は容認されない。これは、動作の対象を表す語が、(b)の文中に既に現れているからだと考えられる。

また、動作の対象が、話し手と聞き手のいる場に存在するという形での「定」である場合も、自動詞は用いることができない。たとえば、目の前に魚を置いて、「誰が捕ったのか」を聞くような場合には、(17)のように他動詞が用いられる。

- (17) *sai adè ka=tumpan' dèta (jangan=ta).*  
 who NOM PERF=get this (fish=this).  
 「誰がこれ(この魚)を捕ったのですか。」

このような場面においては、(18)のような文、つまり鼻音接頭辞の付いた自動詞 *numpan'* の文は用いることができない。

- (18) *sai adè ka=numpan'?*  
 who NOM PERF=get  
 「獲物をとったのは誰ですか？」

(18)のような文は、動作の対象を特定せず「誰に収獲があったか」と聞くような場合に用いられる。

上に示したように、このタイプのペアでは、鼻音接頭辞が付いた形と語基の形はほぼ同様の動作を表すが、中には鼻音接頭辞が、語基の表す意味から派生したと考えられる特殊な意味を表す場合もある。以下にいくつか例を示す。

- mongka'* 「ご飯(米)を炊く」 < *bongka'* 「～(穀類一般)を炊く、煮る」  
*notang'* 「思慕する」 < *totang'* 「～を思い出す」  
*mili'* 「上から落ちてきたたくさんの果実や木の葉などを取ること」  
 < *pili'* 「選ぶ」  
*nyamóng* 「口答えをする」 < *samóng* 「～に返事をする」

この種の派生形の中には、いわゆる平叙文、疑問文には用いられるが命令文には用いられないものが多い。表 4-5 中では命令文に用いられないものに#を付けて示した。

[3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ(いわゆる受動タイプ)

以下の4例が確認されている。

*nyompo'* 「人の肩に乗る」 < *sompo'* 「誰かを肩車する」  
*nèmpèl* 「くつつく」 < *tèmpèl* 「貼る」  
*ngulèng* 「開く、開いている」 < *ulèng* 「開ける」  
*mamóng* 「～がくさい」 < *pamóng'* 「においをかく」

最初の 3 例は、語基の他動詞がある主体が別のものに引き起こす状態変化、あるいははたらきかけを表すのに対して、派生形の自動詞は、主体が自身に内在する力によって、語基の他動詞が表す状態変化を自らに引き起こすという意味という対応を示す。

### 2.1.2.3 鼻音接頭辞のまとめ

鼻音接頭辞の付接した動詞はほとんどが次の性質を持つ。

- (i) 自動詞である。
- (ii) 主体自身に内在する力によって主体の身に起きる状況を表す。

この接辞の機能はこの 2 つの性質を満たす動詞を派生することであるといえるだろう。

上述したように、他動詞を語基とする場合、語基の他動詞と派生形の自動詞は以下の三種類の対応を示す。

- [1] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語と目的語の両方に意味的に対応するタイプ(いわゆる再帰タイプ)
- [2] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語に意味的に対応するタイプ(いわゆる逆受動タイプ)
- [3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ(いわゆる受動タイプ)

このことから、鼻音接頭辞が派生の際指定するのは、派生語の語類(自動詞であること。上の(i))と派生語の意味(上の(ii))だけで、他動詞と派生語の統語的対応(再帰、逆受動、受動)は指定しないということがわかる。

この種の鼻音形動詞のほとんどは[2]の対応を示す。ただし、[2]に属するものの中には、その存在に関する話者の容認度に揺れが見られるものがある。(一人の話者に対して数回調査を行ったが、調査を行うたびに同一の形式が容認されたりされなかったりした。)たとえば、他動詞 *kela'* 「煮る」を語基とする形 *ngela'* 「煮る」、他動詞 *tutóp* 「閉める」を語基とする形 *nutóp* は容認される場合とされない場合があった。鼻音接頭辞は、この種の自動詞を派生する接辞として現在も生産性を持つため、話者は他動詞にこの接頭辞が付接した形を否定はしにくいものの、それぞれの語が実際単語として認められている程度(語彙化の程度)に単語間でばらつきがあるため、そのような揺れが生じるのではないかと考えられる。

どのような単語が語彙化されやすく、どのような単語が語彙化されにくいかに関しては、語基の意味が関係していると考えられる。語彙化の程度が高いものには、「洗濯をする」「脱穀をする」のように、家事や農作業などのプロセスとして、または、「助ける」「あざける」などの人間どうしの交流を構成する一つの行為として社会通念上確立しているものが多い。

また、鼻音接頭辞は次項 2.1.3 で扱う *bar-*と類似の機能を持つため、ある他動詞の *bar-*による派生形が語彙化している場合は、鼻音接頭辞による派生形は語彙化しにくい場合があるという可能性もある。

### 2.1.3 自動詞を派生する接頭辞 *bar-*

*bar-*は自動詞を派生する接辞である。語基は拘束語根、名詞、他動詞である場合がある。

#### 2.1.3.1 接頭辞 *bar-*の形態

この接頭辞は、語基の語頭音によって、*bar*, *bare*, *ba*, *ra* の 4 種類の形を取る。それぞれの形が現れる条件は以下のとおりである。

(i) 語基が 1 音節である場合は、*bare* が現れる。(この言語では、1 音節の語根はすべて最初の音が子音である。)

*bare-to'* 「知っている」 < *to'* 「知っている」

*bare-rék* 「踏む」 < *rék* 「踏む」

(ii) 語基が 2 音節以上の場合、その最初の音によって現れ方が決まる。

(a) 母音の前では、*bar* が現れる。

*bar-anak* 「子どもがいる」 < *anak* 「子ども」

*bar-itóng'* 「勘定をする」 < *itóng'* 「計算する」

*bar-ukér* 「測る」 < *ukér* 「測る」

*bar-ósó* 「自分の体を洗う」 < *ósó* 「磨く」

*bar-ètè'* 「結婚している」 < *ètè'* 「取る」

(b) 語基の最初の音が唇音(*b*, *p*)である場合は *ra* が現れる<sup>12</sup>。(1 音節で *b*, *p* ではじまる語基の例は確認されていない)

*ra-bètak* 「引く」 < *bètak* 「引く」

*ra-bau* 「漁をする」 < *bau* 「何かを手に入れる」

*ra-perés* 「マッサージする」 < *perés* 「押す、揉む」

(c) 語基が 2 音節以上で、最初の音が唇音(*b*, *p*)以外の子音である場合は *ba* が現れる。

*ba-langan* 「歩く」 < *-langan* (拘束語根)

12 例外的に、次の三例では、*raN*という形が現れる。

*ra-mada'* 「伝える」 < *bada'* 「伝える」

*ra-misó'* 「自分の体を洗う」 < *bisó'* 「洗う」

*ra-mamóng'* 「ばれる」 < *pamóng'* 「においをかく」

*ba-salaki* ' (女性が)結婚している、夫がいる' < *salaki* ' 夫'

*ba-kemang* ' 花が咲く' < *kemang* ' 花'

#### 異形態の解釈

この接辞の異形態については以下のような解釈が可能である。

この接頭辞に機能の面に対応するマレー語の接辞に *ber-* という形を持つものがある。マレー語のこの形と上記のスンバワ語の形から推測して、この接頭辞は本来 *bar-* という形であったものが、全体がこの言語の語根の音韻構造に沿う形を満たし、なおかつ全体が、派生形の標準的な音節数である、接辞(1音節)+通常音節数の語基(2音節)の3音節となるような方向で変化が生じたのではないかと考えられる。

(i) 語基が2音節で、母音で始まる場合(上の(ii)aの場合)は、*bar* の付いた形がそのまま上記の条件を満たすため変化は生じなかった。(1音節語根はすべて子音始まりである。母音始まりのものはない。)

(ii) 語基が1音節である場合は、上の(i)で述べたように、*bare* という形が現れる。*e* の挿入は、この言語の音韻構造に沿わない子音連続を避けるためであると考えられる。(母音 *e* の挿入は鼻音接頭辞など *N-* (本章 2.1)を含む他の接辞が1音節の語基に付接する場合にも見られる。例: *ngejét* '縫う' < *jét* '縫う')

(iii) 語基が2音節で、子音で始まる場合は、上の(ii)bで述べたように *ba* という形が現れる。*r* の脱落は、子音連続を避けるためであると考えられる。(ii)(iv)のように母音の挿入が行われなかったのは、全体の音節数を3音節にするためであろうと考えられる。

(iv) (iii)の例外として、語基が2音節で、唇音で始まる場合がある。この場合は、上の(ii)cで述べたように *ra* という形が現れる。接辞の最初の部分 *ba* の脱落は、接辞の最初の音と、語基の最初の音の調音位置が同じであることから生じたのだと考えられる。ただし、この言語には、調音位置を同じくする子音が続くような派生を避けるという制約は他にみられない。

また、*a* 音の挿入は、(ii)の場合と同様、子音連続を避けるためであると考えられる。(ただし、この場合と(ii)の場合で挿入される音が異なることを説明する理由は今のところ明らかではない。)

接頭辞 *bar-* の語基は多くの場合語根であるが、接頭辞 *sa-* のついた派生語に付接する例も確認されている。例を以下に示す。

*ba-sa-berisi* ' 清掃を行う' < *sa-berisi* ' きれいにする' (< *berisi* ' 清潔である')

*ba-sa-maté* ' 殺人を行う' < *sa-maté* ' 殺す' (< *maté* ' 死ぬ')

*ba-se-bo*<sup>13</sup> ' 朝食を取る' < *se-bo* ' 冷ます' (< *bo* ' 冷めている')

13 *ba-se-bo* の字義通りの意味は「冷ます」である。スンバワ語では「空腹である」という状態を *panas-tian* ' おなか熱い」と表現するため、これは、就寝中、(空腹で)熱くなった

*basentèk* 「のせる」 < *s-entèk* 「のせる」 (< *entèk* 「上る」)

### 2.1.3.2 接頭辞 *bar-*の機能

拘束語根、名詞、他動詞が接辞 *bar-*の語基となる。派生語はすべて自動詞である。また、派生語は、動的で持続時間のある状況を表すものがほとんどである。

#### [A] 拘束語根が語基である場合

データ中では以下の3つが確認されている。

*ba-langan* 「歩く」

*be-rari'* 「走る」

*ba-kedèk* 「遊ぶ」

*be-renang* 「休息する」

*ba-surak* 「叫ぶ」

#### [B] 名詞が語基である場合

*bar-*はかなり多くの名詞に付き、さまざまな意味を表す。語基の名詞と派生された動詞の意味的な関係には次のようなものがある。

- (i) 派生動詞が、語基の名詞の表すものを自身の一部として持っている、付帯しているという意味を表す場合。

*ba-kemang* 「花が咲く、花が咲いている」 < *kemang* 「花」

*ba-lamong'* 「服を着ている」 < *lamong'* 「服」

*ba-semèmat* 「口ひげをはやしている」 < *semèmat* 「口ひげ」

- (ii) 派生された動詞が「語基の名詞の表すものを作る、構成する」という意味を表す場合。

*ba-keban* 「畑を耕作する、開拓する」 < *keban* 「畑」

*ba-karang* 「村を開く、構成する」 < *karang* 「村」

- (iii) 派生された動詞が語基の名詞の表す場所へ行く、またはそこにとどまるという意味を表す場合

*ba-sekola* 「在学中である」 < *sekola* 「学校」

*ba-labu* 「入港する」 < *labu* 「港」

*ba-katokal* 「滞在する」 < *katokal* 「居場所」

- (iv) 発話に関する名詞を語基とする場合。派生動詞は「語基の指示物を発話する」という意味を表す。

*b-léng* 「言う」 < *léng* 「ことば、言ったこと」

*ba-tutér* 「物語を語る」 < *tutér* 「物語」

*ba-lawas* 「詩を作る、吟唱する」 < *lawas* 「詩」

- (v) 人間関係を表す名詞を語基とする場合。派生動詞は(a)「ある主体に関して、語基の指

---

おなかを冷やすということに由来する意味であると考えられる。

示物に当たるものが既に存在する」という意味を表す場合と、(b)「ある主体が他の対象とその関係にある」という意味を表す場合がある。

(a)の例：*ba-soai* 「妻帯している」<*soai* 「妻」

*bar-anak* 「子どもがいる」<*anak* 「子ども」

(b)の例：*ba-sanak* 「兄弟姉妹である」<*sanak* 「兄弟」

*ba-dengan* 「つきあいがある」<*dengan* 「連れ、友人」

接頭辞*bar-*が、名詞ではなく名詞句に付接していると考えられる場合もある。この場合、語基と派生形の動詞の意味的対応は(i)のパターンを示す。たとえば、名詞句*sangé jaran*「馬(*jaran*)のあご(*sangé*)に*ba-*が付いて、*ba-sangé-jaran*「馬のようなあごをしている(あごが長い)」という自動詞が形成されうる<sup>14</sup>。この場合、名詞句に*ba-*が付いた形全体が音声的にも一つの強勢を持つ単語として発話される。このような語形成はかなり自由に行うことができる。

(例) *ra-boa-tikés* 「ねずみ(*tikés*)のような口(*boa*)をしている」

*ra-mata-bodok* 「ねこ(*bodok*)のような目(*mata*)をしている」

#### [C] 他動詞を語基とする場合

この接辞が付接しうる他動詞は限られている。123 の他動詞に関して接頭辞 *bar-*の付接可能性を調査したところ、付接が可能だったのは 56 個の他動詞であった。付接を可能とする条件は、現在のところ特定されていない。

調査の結果は章末の表 4-5 に示した。語基の他動詞は、他動詞語根が 118 例、*sa* 形が 5 例である。

以下、容認された例に関して記述する。

派生された形は、すべて自動詞である。語基の他動詞と派生形の自動詞の対応は次の 3 種類に分類できる。(これは前項で扱った鼻音接頭辞が他動詞語基に付接する場合の対応と同じである。)

[1] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語と目的語の両方に意味的に対応するタイプ (いわゆる再帰タイプ)

[2] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語に意味的に対応するタイプ (いわゆる逆受動タイプ)

[3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ (いわゆる受動タイプ)

それぞれの場合について以下に述べる。

14 この例は、テキスト「スンバワの歴史[SS]」[24]-[35]に確認されている。

[1] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語と目的語の両方に意味的に対応するタイプ(いわゆる再帰タイプ)

以下の8例が確認されている。

- ra-misó'* 「自分自身を洗う」 < *bisó'* 「洗う」  
*ba-dadi* 「広がる、大きくなる、増える」 < *dadi* 「～になる」  
*ba-ganti* 「交代する」 < *ganti* 「代える」  
*ba-gentan* 「交代する」 < *gentan* 「代える」  
*ba-sisér* 「自分の髪をとかす」 < *sisér* 「髪をとかす」  
*ba-sió'* 「隠れる」 < *sió'* 「隠す」  
*ra-bètak* 「最後の息を引き取る」 < *bètak* 「引っ張る」  
*bar-ósó* 「自分のからだをこすって洗う」 < *ósó* 「こする」

上記のペアにおいて、語基の他動詞と派生形の自動詞は類似の状況を表すが、他動詞は動作主体が別の対象に影響を及ぼす動作を表すのに対して、派生形の自動詞は、動作主体が自分自身に影響を及ぼす動作を表しているという点が異なっている。他動詞の文では動作主体が主語によって表され、動作の対象が目的語によって表される。それに対して、自動詞の文では動作主体(動作を被る者と同一)が主語によって表されているということになる。

他動詞 *sió'* 「隠す」とそれを語基とする自動詞 *basió'* 「隠れる」の例を示す。

- (19) *ku=sió'*                      *tódé=ta,*    *léng*    *apan*    *léng*    *tau*  
 1SG.LOW.AFFIX=hide    child=this    because    chase    by    person  
 「私はこの子どもが人に追われているので、かくまっている。」

- (20) *ba-sió'*            *nya*    *léng*            *apan*    *léng*    *tau*  
 hide oneself    3    because    chase    by    person  
 「彼は人に追われて身を隠している。」

[2] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語に意味的に対応するタイプ(いわゆる逆受動タイプ)

45例確認されている。一部の例を挙げる。

- bar-antat* 「持って行く」 < *antat* 「持って行く」  
*ramada'* 「伝える」 < *bada'* 「伝える」  
*ba-gerék* 「振る、ゆらす」 < *gerék* 「振る、ゆらす」  
*ba-gigél* 「咀嚼する」 < *gigél* 「噛む」  
*ba-gita'* 「見る」 < *gita'* 「見る」

*bar-itóng'* 「勘定をする」 <*itóng'* 「数える」  
*bare-ntok* 「見張る」 <*ntok* 「見張る、ガードする」  
*ba-sedia* 「準備をする」 <*sedia* 「準備をする」  
*ba-tari* 「待機する」 <*tari* 「待つ」  
*ba-rentas* 「洗う」 <*rentas* 「洗う」

このタイプのペアでは、語基の他動詞と派生形の自動詞はほぼ同様の状況を表している。異なるのは、語基の他動詞が動作主体と動作の対象両方について述べるのに用いられるのに対して、派生形の自動詞は動作主体についてのみ言及するのに用いられるという点である。他動詞 *tari* とそれを語基とする自動詞 *ba-tari* の例を示す。

(21) *tó'*      *ku=tari*                      *nya*      *nta.*  
 now    1SG.LOW.AFFIX=wait    3            here  
 「今、私はここで彼を待っている。」

(22) *ku=ba-tari*                      *nta.*  
 1SG.LOW.AFFIX=wait            here.            「私はここで待機している。」

この種の自動詞は、前項で扱った鼻音接頭辞の付いた自動詞と同様、動作の対象は視点の外に置いて、動作主の動作だけに注目して述べる場合に用いられる。

派生形の自動詞は、潜在的に動作の対象を持つ動作を表すが、鼻音接頭辞の付いた自動詞と同様、この場合も動作の対象に相当する語と共起することはない。また、動作の対象が定である場合は用いられない。

(23) \**ku=ba-tari*                      *nya.*  
 1SG.LOW.AFFIX=wait    3  
 (期待される意味) 「私は彼を待っている。」

このタイプのペアのほとんどは、上に示した例のように、語基の他動詞と派生形の自動詞がほぼ同じ動作を指す。ただし、自動詞が他動詞と意味的に関連するやや特殊な意味を表す場合もある。以下にそのような例を示す。

*ra-buya* 「生計の手段を求める」 < *buya* 「探す、求める」  
*ba-kakan* 「おやつなど食事以外でものを食べる」 < *kakan* 「食べる」  
*ba-garu'* 「人の邪魔をする、騒ぎを起こす」 < *garu'* 「邪魔する」  
*ra-mili'* 「えり好みする」 < *pili'* 「選ぶ」  
*ba-turét* 「人のいいなりになる、列を作って歩く」 < *turét* 「ついて行く」

[3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ  
 (いわゆる受動タイプ)

以下の5例が確認されている。

*ramamóng'* 「ばれている」 < *pamóng'* 「においをかく」  
*ba-campér* 「混ぜている」 < *campér* 「混ぜる」  
*ba-tukar* 「(ものなどが)入れ替わっている」 < *tukar* 「交換する」  
*ba-kala'* 「沸騰している」 < *kala'* 「煮る」  
*bar-ètè'* 「結婚している<sup>15</sup>」 < *ètè'* 「取る」

この場合、派生形の動詞は、語基の他動詞が表す状況の結果を表す。より詳しく言えば、派生形の動詞は、語基の他動詞が表す、(i) 動作主が動作の対象にもたらす何らかの「変化」と(ii) その結果として動作の対象に生じる状態のうち、(ii) 結果としての状態のみを、属性の持ち主を主体として述べるのに用いられる。それゆえ他動詞の表す状況の動作主に対応するものは派生形の動詞の表す状況の視点の外に置かれ、文中には現れない。

#### 2.1.3.3 接頭辞 *bar-*のまとめ

接頭辞 *bar-*の付接した動詞はそのほとんどが次の三つの性質を持つ。(いずれも前項で扱った鼻音接頭辞が付接した動詞と類似した性質である。)

- (i) 自動詞である。
- (ii) 動的で一定の持続時間を持つ状況を表す。  
(例外として *ra-bètak* 「最後の息を引き取る」、*ba-ganti* 「交代する」、*ba-gentan* 「交代する」などがある。)
- (iii) 主体自身に付帯する状況、または、主体自身に内在する力によって<sup>16</sup>主体の身に起きる状況を表す。(前者の意味は主に名詞が語基である場合、後者は主に他動詞が語基である場合に表される意味である。)

この接辞の中心的機能はこの三つの性質を満たす動詞を派生することであるといえる。他動詞が語基である場合、この接頭辞は前項で扱った鼻音接頭辞と類似した機能を持つ。鼻音接頭辞の場合と同様、語基の他動詞と派生形の自動詞は以下の三種類の対応を示す。

- [1] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語と目的語の両方に意味的に対応するタイプ(いわゆる再帰タイプ)
- [2] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語に意味的に対応するタイプ(いわゆる逆受動タイプ)

15 これは、人が誰かに取られている、すなわち結婚しているという連想から生じた意味であると考えられる。

16 前頁の他動詞から自動詞の派生パターン[3]に属するものに関しては、このことはあてはまらない。

[3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ (いわゆる受動タイプ)

このことから、前項 2.1.2 で扱った鼻音接頭辞の場合と同様、接頭辞 *bar-* が派生の際指定するのは、派生語の語類(自動詞であること。上の(i))と派生語の意味(上の(ii)(iii))だけで、他動詞と派生語の統語的対応(再帰、逆受動、受動)は指定しないということがわかる。

ただし、具体例をみると、鼻音形動詞の場合と同様、*bar-*形動詞も[2]の対応を示すものが多い。この点については 2.3 で説明を試みる。

この言語の他動詞はその多くが鼻音接頭辞、接頭辞 *bar-* の片方または両方によって自動詞化される。また、前項で述べたように鼻音接頭辞と接頭辞 *bar-* は他動詞を語基とする場合は似通った機能を持つ。個々の他動詞にどちらの接辞が付接するかは、予測不可能である。(語基の形態によっても意味によっても予測できない。)

ただし、鼻音接頭辞の項でも述べたように、鼻音接頭辞と接頭辞 *bar-* は非常に似通った機能を持つため、ある他動詞の鼻音接頭辞による派生形が語彙化している場合は、接頭辞 *bar-* による派生形は語彙化しにくい場合があるということがいえそうである。

#### 2.1.4 自動詞を派生する接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-*

この接辞は自動詞を形成する。この接辞が付接した形は確認されている例が少なく、現在のデータ中では 45 例である。

##### 2.1.4.1 接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-* の形態

この接辞は、*ka*, *kaN*, *geN<sup>2</sup>* のいずれかの形で現れる。( *N*, *N<sup>2</sup>* は語基の最初の音によって決まる鼻音である。具体的にどのように現れるかについては 2.1 の冒頭で述べた。)

これらの形の現れ方は他の接辞の場合と同様、語基の音節数と語基の最初の音によってある程度条件付けられている。具体的な現れ方は以下のとおりである。(語基の最初の音が *k*, *c* である例は確認されていない。)

[A] 語基が 1 音節である場合、2 音節で最初の音が母音である場合、または、2 音節で最初の音が *d*, *g* である場合は、*kaN* が現れる。具体例を以下に示す。

- ・語基が 1 音節である場合は、*kange* が現れる。確認されているのは以下の一例のみである。

*kange-to* 'ばれている' < *to* '知っている'

- ・語基が 2 音節以上で、母音である場合は、*kang* が現れる。

*kang-angén* '湿気ている' < *angén* '風'

*kang-ompa* '疲れている' < *ompa* '疲れている'

*kang-ila* '恥ずかしがる' < *ila* '～が恥ずかしい'

- ・語基が 2 音節以上で、語基の最初の音が *d*, *g* である場合は、それぞれ *kan*, *kang* が現れる。

確認されているのは以下の例のみである。

*kanapat* 「みつかる」 < *dapat* 「見つける」

*kaningén* 「寒くてつらい」 < *dingén* 「気候が寒い」

[B] 語基が2音節以上で、その最初の音が *b* である場合は、*kaN* が現れる場合と *ka* が現れる場合がある。

・ *kaN* (*kam*) が現れる場合。確認されているのは次の一例のみである。

*kameri'* 「喜ぶ」 < *beri'* 「～が好きである」

・ *ka* が現れる場合

*ka-balék* 「裏返っている」 < *balék* 「裏返す」

*ka-belak* 「おぼれる」 < *belak* 「おぼれる」

*ka-bokèk* 「皮がむける」 < *bokèk* 「皮をむく」

[C] 語基が2音節以上で、語基の最初の音が *s, j, r, l, m, ny, ng* である場合は *ka* が現れる。(確認されているのは、それぞれ以下に挙げたもののみである。)

*ke-sakét* (*ka-+sakét*) 「苦しむ」 < *sakét* 「痛い、病気である。」

*ka-susa'* 「心配する」 < *susa'* 「難しい、大変だ」

*ka-renam* 「沈む」 < *renam* 「沈める」

*ka-lupa'* 「忘れる」 < *-lupa'* 「忘れる」

*ka-mahal* 「面倒である」 < *mahal* 「高い」

*ka-maté* 「しびれている」 < *maté* 「死ぬ」

*ka-mrang'* 「こわがっている」 < *mrang'* 「おそろしい」

*ka-nyaman* 「快く感じる」 < *nyaman* 「快適な、楽な、おいしい」

*ka-jengang* 「無礼である」 < *jengang* 「無礼である」

*ka-ngantok* 「眠い」 < *ngantok* 「眠い」

[D] 語基が2音節以上で、語基の最初の音が *p* の場合は *kaN* が現れる場合、*ka* が現れる場合、および *geN<sup>2</sup>* が現れる場合がある。

・ *kaN* が現れる場合

*kamamóng'* 「ばれる」 < *pamóng'* 「においをかく」

・ *ka* が現れる場合

*ka-pinan* 「(人の性質等が)変わる、変化する」 < *pinan* 「変える」

・ *geN<sup>2</sup>* が現れる場合

*gem-padang* 「辛くて苦痛を感じる」 < *padang* 「(食べ物が)辛い」

*gem-panas* 「暑くて不快である」 < *panas* 「(気候が)暑い」

*gem-poro* 「喜ぶ」 < *poro* 「～のことがうれしい」

2.1 で触れたように、*N<sup>2</sup>*は、語基の最初の音と調音位置が同じである鼻音の付加である。最初の音が脱落して鼻音と交代するのではなく、最初の音を残したまま鼻音が付接される点が他の接辞に現れる鼻音*N*の現れ方と異なる。

[E] 語基が2音節以上で、語基の最初の音が*t*の場合は*ka-*が現れる場合と*geN<sup>2</sup>-*が現れる場合がある。

・ *ka* が現れる場合

*ka-takét* 「こわがる」 < *takét* 「～をこわがる」

*ka-temóng* 「(ばったり)会う」 < *temóng* 「会う」

*ke-tités* (< *ka+tités*) 「したたる」 < *tités* 「水滴」

*ke-tumpal* (< *ka+tumpal*) 「考えなしである」 < *tumpal* 「考えなしである」

・ *geN<sup>2</sup>* が現れる場合

*gen-terés* 「やりすぎる、乗り越す」 < *terés* 「続く」

*gen-tomas* 「騒がしくして不快である」 < *tomas* 「(～の音が)騒がしい」

*gen-talo* 「嫉妬する」 < *talo* 「負ける」

*gen-teri'* 「流産する」 < *teri'* 「落ちる、転ぶ」

*gen-tuna* 「物を与えるのをしぶる」 < *tuna* 「もったいない」

以上[A]-[E]から、それぞれの異形態が現れうる条件は以下のとおりであるといえる。

・ *ka* が現れる場合：語基が2音節で最初の音が *p, t, b, m, ny, ng, s, j, r, l* である場合

・ *kaN* が現れる場合：語基が1音節である場合

語基が2音節で最初の音が母音である場合

語基が2音節で最初の音が *p, t, b, d, g* である場合

・ *geN<sup>2</sup>* が現れる場合：語基が2音節で最初の音が無声閉鎖音である場合（上述したように、*k*ではじまる語根の例は確認されていない。）

*geN<sup>2</sup>*という形とこの接辞の他の形*ka*, *kaN*との対応は、この言語の他の接辞の異形態の現れ方から見て特異である。また、それぞれが現れる条件が厳密に相補分布を示しているわけでもない。このため、*geN<sup>2</sup>*が*ka*または*kaN*で現れているものと同じ接辞であるとする確実な根拠はない。しかし*geN<sup>2</sup>*, *ka*, *kaN*の機能は並行的に考えられる点が多いため、ここではこの三つの形を同一の接辞として扱うことにする。

接頭辞 *ka-*は過去を表すテンス・アスペクト辞 *ka* と同形である。そのため、*ka-*による派生語と語根形の単語にアスペクト辞 *ka* が付いた形は同じ形になることがある。たとえば、他動詞 *sèang* 「ばらまく」に *ka* が付いた形 *kasèang* は、アスペクト辞 *ka* が付いた形「ばらまいた」としても、自動詞派生接辞 *ka* による派生語「散らばっている」としても解釈される。

それぞれの例を以下に示す。

(24) *gula=nan ka=sèang léng tódé=nan.*

sugar=that PERF=scatter by child=that

(アスペクト辞 *ka* (完了) の例) 「砂糖はその子がばらまいた。」

(25) *gula=nan ka-sèang.*

sugar=that spread

(接頭辞 *ka-* による派生動詞の例) 「砂糖が散らばっている。」

この二つの形には次のような違いがある。

(i) 派生語においては、接頭辞 *ka-* の母音の部分が弱化して *ke* と発音されることがあるが、アスペクト辞 *ka* が付いた形ではそのようなことはない。

(ii) 他動詞が語基である場合、派生語は自動詞になり、他動詞文の主語を表す前置詞 *léng* の句と共起しない。

なお、派生語にアスペクト辞 *ka* が付いた形も可能である。

(例: *ka=kasèang* 「散らばっていた(今は散らばっていない。)」

#### 2.1.4.2 接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-* の機能

擬声語<sup>17</sup>、拘束語根、名詞、自動詞、他動詞を語基とする例がそれぞれ確認されている。

##### [A] 擬声語、拘束語根が語基である例

確認されているのはそれぞれ下の一例のみである。

*ke-sèok* 「水が勢いよく流れる」 < *sèok* 「ザーッ(物が流れるようすを表す擬声語)」

*ka-lupa'* 「忘れる」 < *-lupa'*

##### [B] 名詞が語基である例

次の 3 例が確認されている。派生語のうち、最初の二例は名詞の指示物によって主体が影響を受けるという状況を、次の一例は名詞の指示物に特有の運動を表している。

*kang-angén* 「湿気ている」 < *angén* 「風」

*ka-momang* 「浮かぶ」 < *momang* 「うき」

*ka-tités* 「したたる」 < *tités* 「水滴」

##### [C] 自動詞が語基である例

語基の自動詞と派生形の自動詞の対応は主に次のように分類できる。

(i) 語基の自動詞と派生形の自動詞がほぼ同様の意味、統語的機能を持つ場合

*ka-belak* 「おぼれる」 < *belak* 「おぼれる」

*ke-jengang* 「無礼である」 < *jengang* 「無礼である」

*ka-sumpal* 「横柄である」 < *sumpal* 「横柄である」

17 一般に、擬声語が文中でどのようなはたらきをするかについては未調査である。



## (iii) 顕著な意味変化が生じている場合

以下の例では、派生動詞が語基の意味からは予測不可能な意味を表している。

*kang-ilang* 「人がものをなくした状態にある」 < *ilang* 「なくなる」

*ka-maté* 「麻痺している」 < *maté* 「死ぬ」

*ka-sala'* 「間違う」 < *sala'* 「(性質が)正しくない」

*gen-talo* 「嫉妬する」 < *talo* 「負ける」

*gen-teri'* 「流産する」 < *teri'* 「落ちる、転ぶ」

*gen-terés* 「うっかりやりすぎる、乗り越す」 < *terés* 「続く」

## [D] 他動詞が語基である例

語基と派生動詞の対応には以下のものがある。

## (i) 派生動詞の文の主語が語基の動詞の文の主語と意味的にほぼ対応するもの。

以下の 3 例においては、語基の他動詞と派生形の他動詞はほぼ同じ状況を表す。いずれも知覚や感情を表す動詞である。

*ka-temóng* 「(ばったり)会う」 < *temóng* 「会う」

*kang-ila'* 「恥ずかしがる」 < *ila'* 「～が恥ずかしい」

*ka-takét* 「こわがる」 < *takét* 「～をこわがる」

この場合、自動詞の構文、他動詞の構文いずれにおいても知覚や感情を感じる主体を表す要素が主語として現れる。知覚や感情の対象(あるいは原因)は、語基の他動詞の文では目的語によって表され、派生形の文では前置詞句補語(前置詞 *ké'* 'with' の句)によって表される。

以下に語基の他動詞の文 *temóng* 「会う」と自動詞の文 *ka-temóng* 「会う」の例を示す。

(28) *ku=temóng*                      *dengan*  
1SG.LOW.AFFIX=meet    friend 「私は友人に会う。」

(29) *ku=ka-temóng*                  *ké' dengan*  
1SG.LOW.AFFIX=meet    with    friend 「私は友人に会う。」

この例を含む三例すべてに言えることだが、語基の他動詞の文と、派生形の自動詞の文の間に意味の違いは認められない。ただし、この二つの動詞の間では派生形の方が一般的に使われる形であるようだ。語基の形は調査では認められたが、テキストや日常の会話では確認されていない。

一方、以下の 2 例では、語基の他動詞と派生形の自動詞はほぼ同様の状況を表すが、語基の他動詞は相手のある状況を、派生形の自動詞は相手のない状況を表す。

*kameri'* 「喜ぶ」 < *beri'* 「～が好きである」

*ke-surak* (< *ka+surak*) 「恐怖で叫ぶ」

#### 4.2.1.4 自動詞を派生する接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-*

< *surak* 「叫び声」「人を大声で非難したりからかったりする」

(ii) 派生動詞の文の主語が語基の動詞の文の目的語と意味的にほぼ対応するもの。

動作の結果としての状態を表す。

*ke-balék* (< *ka+balék*) 「裏返っている」 < *balék* 「裏返す」  
*ka-bokèk* 「(穀物などの)皮が(自然に)むける」 < *bokèk* 「皮をむく」  
*kenapat* (< *ka+dapat*) 「ばれている」 < *dapat* 「見つける」  
*kamamóng'* 「知られている」 < *pamóng'* 「においをかく」  
*ka-pinan* 「(人の性質などが)変わる、変化する」 < *pinan* 「変える」  
*ka-renam* 「沈む」 < *renam* 「沈める」  
*ka-sèang* 「散らばっている」 < *sèang* 「散らす」  
*kange-to'* 「知られる、ばれる」 < *to'* 「知る」

他動詞 *balék* 「裏返す」とそれを語基とする *kebalék* 「裏返っている」の例を示す。

(30) *ku=balék*                                      *lamóng=nan léng aku.*  
 1SG.LOW.AFFIX=turn.over    clothes=that    by    1SG.LOW

「私はその服を裏返す。」

(31) *lamong=nan ka-balék*  
 clothes=that    inside.out  
 「その服は裏返っている。」

二つの文は、語基の他動詞の文が動作を行った者とそれによって影響を被ったものの両方について述べているのに対して、派生形の自動詞の文は動作を被った事物の状態を中心に述べているという点が異なる。

この意味的違いはそれぞれの動詞の構文と対応している。語基の他動詞の文では、動作の主体が主語によって表され、動作の対象が目的語によって表される。一方、派生形の自動詞の文では、他動詞の文の目的語に相当する事物が主語によって表される。派生形の自動詞の文に、語基の他動詞の文の主語に相当する事物を表す要素が現れることはなく、*ka-*の付接した形は、その状況を引き起こした事物について言及しない場合に用いられる。

#### 2.1.4.3 接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-*のまとめ

以上の内容を総括すると以下のことがいえる。接頭辞 *ka-/geN<sup>2</sup>-* が付接しうる形式は、擬声語、名詞、自動詞、他動詞と多岐にわたるが、派生語はすべて自動詞である。

語基と派生語の意味的対応は語基の表す内容によってさまざまであるが、派生語はそのほとんどが「主体の制御によるのではなく、また明確な他者の制御によるのでもない力によって主体の身に引き起こされる状況」を表す。

このような状況は、おおまかには次の二種類に分類でき、ほとんどの *ka-* 動詞が[1][2] いずれかの意味を表す。

- [1] 主体の意志にかかわらず起こる生理的現象や感情
- [2] 重力などの自然の力や偶然によって起こる状況

#### 2.1.5 語頭に *ka-* を含む自動詞

以下に挙げる単語は、いずれも *ka-* または *ke-* で始まる 3 音節語である。話者はこれらの形を語根として認識しており、これらから *ka-* を除いた部分は、独立した単語としても、単語の一部としても確認することができない。しかし、これらの単語は、いずれも語根としては標準的ではない三音節語である。また、上で扱った接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が付接した形が共通して持つ機能、つまり、主体の制御が可能ではない状況を表すという意味的機能と、自動詞としての統語的機能を共有していることから、歴史的には接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が付接した形である可能性がある。

- kamelas* 「驚く」<sup>18</sup>
- kamilat* 「食べ物がのどにつまる」
- kalelap* 「沈む」
- kamanga'* 「驚く」
- kamantél* 「つまづく」
- kamoan* 「のどがかわいている」<sup>19</sup>
- kanyonyat* 「熱があつて震える」
- kanénték* 「恐怖でふるえる」
- kapelak* 「(毛の生え方などが)均一でない、むらがある」
- kapusan* 「がまんできない」
- kasandóng'* 「がっかりする」
- kasaró'* 「恐怖のあまり金切り声を出す」
- kasosar* 「滑る」
- katelar* 「沈む」
- katoar* 「沈む」
- kamalét* 「あくびをする」
- kapusan* 「耐えられない」
- ketawa* 「笑う」
- kerupók* 「急ぐ、考えなしに行動する、慌てる」

18 形態的に対応する *belas* 「波、波紋」という語があるが、意味から考えて、この二つの語に対応があるとは考えにくい。

19 形態的に対応する *moan* 「肛門」という語があるが、意味から考えて、この二つの語に対応があるとは考えにくい。

*keputóng'* 「急ぐ」

これらの単語の素性に関しては、次の二つの可能性が考えられる。

- (i) かつては単語として用いられていた要素に *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が付接した派生語であるという可能性。
- (ii) かつて *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が当該の動詞が主体の制御によらない状況を表すことを示すマーカーとして機能していたという可能性。(つまり、かつてこの言語には、主体の制御によらない状況を表す自動詞には義務的にそれを示すマーカーとして *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が付接するという規則があり、そのマーカーが付いた形が現在の話者には語根として認識されているという可能性。)

#### 2.1.6 名詞を派生する接頭辞 *ka-*<sup>1</sup>

この接辞は、名詞に付接し、「かつて語基の名詞の指示物だったもの」という内容を表す。

*ka-guru* 「かつて先生であった人」

*ka-sekola* 「かつて学校であった建物」

この接辞は、意味的に名詞ではなく名詞句に付接していると考えられる場合もある。

*ka-guru nya* 「彼(*nya*)の元先生」

*ka-balé=kaku* 「私(*kaku*)の昔の家」

第5章6.2および第6章1.1で示すように、この言語には「完了」を示す同形のアスペクト辞がある。この接辞は歴史的にこのアスペクト辞と関係があると思われる。

#### 2.1.7 名詞を派生する接頭辞 *ka-*<sup>2</sup>

*ka* が現れる場合と *kaN* が現れる場合があるが、確認されている例が以下の5例しかないため、それぞれが現れる条件を確定することができない。語基は名詞である場合、自動詞である場合、他動詞である場合が確認されている。派生語は抽象的な場所や地位のようなものを表すことが多い。

##### [A] 名詞が語基である場合

*kamaèng'* 「将来遺産となるべきもの、土地」 < *baèng'* 「持ち主」

##### [B] 自動詞が語基である場合

*ka-tokal* 「居場所」 < *tokal* 「座る」

*kanadi* 「職業、地位」 < *dadi* 「～になる」

*ka-telas* 「生計手段」 < *telas* 「生きる」

[C] 他動詞が語基である場合

*ka-mutar* 「領地」 < *putar* 「回転させる」

## 2.1.8 名詞を派生する接頭辞 *paN*-

### 2.1.8.1 接頭辞 *paN*-の形態

この接辞は、*paN*(*N*は語基によって変わる鼻音。詳細は本章 2.1 に示した)以外に *pa*, *par*, *pare* という 3 つの形のいずれかで現れうる。それぞれの形が現れる条件は以下のとおりである。

(i) 語基が 1 音節である場合は、*pare* または *paN* (この場合は *pange*-) が現れる。(どのような場合にどちらが現れるかについてはわかっていない。)

・ *pare* が現れる場合

*pare-sat* 「動物をつないで置く場所」 < *sat* 「動物などをつなぐ」

*pare-sét* 「噛まれた跡、噛み方法」 < *sét* 「噛む」

*pare-ntok* 「護衛の対象、護衛のやり方」 < *ntok* 「護衛する」

*pare-rés* 「磨かれるもの、磨く方法、道具」 < *rés* 「磨く」

・ *paN* が現れる場合

*pange-to'* 「知識」 < *to'* 「知る」

*pange-jét* 「縫い目、縫う方法」 < *jét* 「縫う」

(ii) 語基が 2 音節以上で最初の音が母音である場合は、語基によって、*par* が現れる場合と *paN* (この場合は *pang*) が現れる場合がある。(どのような場合にどちらが現れるかについてはわかっていない。)

・ *par* が現れる場合

*par-ajak* 「誘う方法、誘われる人」 < *ajak* 「誘う」

*par-antat* 「(行事の際に)人の家に持ち寄る物資」 < *antat* 「連れて行く」

*par-itóng'* 「計算、見込み、計算の方法」 < *itóng'* 「数える、計算する」

*par-ulèng* 「開け方」 < *ulèng* 「ドアなどを開ける」

*par-ètè'* 「取られたものや人」 < *èté'* 「取る」

*par-óló'* 「置き方、置いたもの」 < *óló'* 「置く」

*par-ósó* 「磨く方法、磨いたもの」 < *ósó* 「磨く」

・ *paN* が現れる場合

*pang-inóm* 「いつも何かを飲みたがる人」 < *inóm* < 「飲む」

*pang-ingo'* 「見る方法、見方」 < *ingo'* 「見る」

*pang-ukér* 「測り方、測った結果、測るのに使う道具」 < *ukér* 「測る」

*pang-udét* 「ヘビースモーカー」 < *udét* 「タバコをすう」  
*pang-èjèk* 「あざけり」 < *èjèk* 「あざける、からかう」  
*pang-osap* 「拭き方、ぬぐいかた」 < *osap* 「拭く、ぬぐう」

(iii) 語基が2音節以上で最初の音が唇音 (*p, b*) 歯音、歯茎音 (*t, d, s, c, j*) である場合は、原則として *paN* が現れる。

・語頭音が *p* である場合

*pamoyong* 「包んだもの、包み方、包み紙」 < *poyong* 「包む」  
*pamènok* 「のぞき方」 < *pènok* 「のぞく」

・語頭音が *b* である場合

*pameli* 「買ったもの」 < *beli* 「買う」  
*pamolang* 「捨てたもの、捨て方」 < *bolang* 「捨てる」

例外として、語基が *bau* 「摘む、取る」である場合は、*pa* が表れ *pa-bau* 「果物などを摘んだ痕跡、摘むこと」となる。

・語頭音が *t* である場合

*panalat* 「埋め方、埋めた様子」 < *talat* 「埋める」  
*panebok* 「切られたもの、切り方、切った跡」 < *tebok* 「切る」

例外として、*telét* 「指さす」を語基とする派生語がある。*telét* からは、原則どおり *paN* が付接した形 *panelét* 「指さすための道具、指さす方法」と、*paN*<sup>2</sup> が付接した形 *pantelét* 「占いなどによる儀式などの日取りの指示」の二語が派生される。

・語頭音が *d* である場合(この一例のみである)

*panapat* 「学問、知識」 < *dapat* 「手に入れる」

・語頭音が *s* である場合

*panyamóng* 「返事(の内容、仕方)」 < *samóng* 「答える」  
*panyempét* 「送られて来たもの」 < *sempét* 「送る」

・語頭音が *c* である場合(この一例のみである。)

*panyoba* 「テスト、試験」 < *coba* 「試す」

・語頭音が *j* である場合(この一例のみである。)

*panyempóng'* 「跳ぶこと、跳ぶ方法」 < *jempóng'* 「とびこえる」

(iv) 語基が2音節以上で、語頭音が *k, g* である場合は可変部分 *N* が現れる場合と、現れない場合の両方がある。(条件はわかっていない。)

・語頭音が *k* である場合

・可変部分 *N* が現れる場合。( *pang* が現れる。)

*pangerok* 「掻く道具、方法、掻くこと」 < *kerok* 「かゆいところを掻く」

#### 4.2.1.8 名詞を派生する接頭辞 *paN-*

*pangokèk* 「ひっかく癖、ひっかいた跡、ひっかく方法」 < *kókèk* 「ひっかく」

*pangukés* 「蒸し器」 < *kukés* 「蒸す」

- ・可変部分 *N* が現れない場合。( *pa* が現れる。)

*pa-kèngang* 「使う方法、衣装」 < *kèngang* 「使う」

*pa-kakan* 「お菓子」 < *kakan* 「食べる」

*pa-katoan* 「質問の内容、方法」 < *katoan* 「たずねる」

- ・語頭音が *g* である場合

- ・可変部分 *N* が現れる場合 ( *pang* が現れる。)

*pangoco* 「刺された痕跡、刺す方法、刺す人」 < *goco* 「刺す」

- ・可変部分 *N* が現れない場合 ( *pa* が現れる。)

*pa-gigil* 「噛まれた痕跡、噛むこと、噛み方」 < *gigil* 「噛む」

*pa-gita* 「想像、お告げ、見方、目つき」 < *gita* 「見る」

語頭音が *g* であるもののうち、いくつかに関しては、可変部分 *N* が現れる形と現れない形、両方の付接が許容される。(意味の違いは観察されない。)

*pa-gantong*, *pangantong* 「掛ける場所、掛けるもの、掛ける方法」

< *gantong* 「(服などを)掛ける」

*pa-gentan*, *pangentan* 「弁償品」 < *gentan* 「交換する」

*pa-giléng*, *pangiléng* 「すり鉢、する方法、米を精白する工場」

< *giléng* 「精白する、する、挽く」

- (v) 語頭音が *l, r* である場合は、*pa* が付接する。

*pa-loat* 「切る方法、薄切りされたもの、切った跡」 < *loat* 「薄切りにする」

*pa-lèla* 「なめ方、なめた跡」 < *lèla* 「なめる」

*pa-regam* 「つかむ方法」 < *regam* 「つかむ」

*pa-rampak* 「踏み台、踏む方法、踏み方」 < *rampak* 「踏む」

#### 2.1.8.2 接頭辞 *paN-*の機能

主に他動詞が語基であるものが多いが、拘束語根、および自動詞が語基であるものもある。派生語はすべて名詞である。

- [A] 拘束語根が語基である場合

データ中では以下の四例である。

*pa-kedèk* 「遊び道具」

*pa-langan* 「歩き方」

*pa-renang* 「休憩時間」

*pa-temóng* 「継ぎ目、合わせ目」

[B] 自動詞が語基である場合

データ中では以下の 12 例である。派生形の名詞の意味は様々である。

語基の自動詞が動的な状況を表す場合は、その表す状況の様態を表すことが多い。

*pa-manang* 「立ち方」 < *manang* 「立つ」

*pa-néngké* 「つま先立ちをする方法」 < *néngké* 「つま先立ちをする」

*pa-mémpé'* 「中腰で立つやり方」 < *mémpé'* 「中腰で立つ」

*pa-bléng* 「言い方」 < *bléng* 「言う」

*pa-lontak* 「飛び越す方法、飛び越すための道具、飛び越すこと」 < *lontak* 「跳ぶ」

*panari* 「踊り手」 < *tari* 「踊る」

*pa-turén* 「下り坂」 < *turén* 「降りる」

語基の自動詞が静的な状況を表す場合は語基の動詞が表す状況を実現するための道具や手段を表す。

*panguat* 「補強物、補佐」 < *kuat* 「強い」

*pangankat* 「何かを暖めるもの」 < *angkat* 「温かい、暖かい」

*pangempók* 「やわらかくするためのもの(パンに入れるイーストなど)」  
< *empók* 「柔らかい」

*pamanés* 「甘くするもの、砂糖、甘味料」 < *manés* 「甘い」

*panawar* 「味をなくすための薬」 < *tawar* 「味がない」

[C] 他動詞が語基である場合

大部分の他動詞が、対応する *paN* 形の名詞を持つ。

派生形の名詞が表す意味には以下のものがある。(個々の語基と派生形の対応については、章末の表 4-6 に示した。)

- (a) 語基の表す行為が行われる方法を表すもの
- (b) 語基の表す行為が行われた結果の様子、あるいは、結果としての痕跡を表すもの
- (c) 語基の表す行為が行われる対象としての事物、人を表すもの
- (d) 語基の表す行為を行うための道具や手段を表すもの
- (e) 語基の表す行為(認知、発話など)の内容を表すもの
- (f) 語基があらわすやりとりにおいて、やりとりされるものを表すもの
- (g) 語基の表す行為を習慣的に行う人を表すもの

個々の派生形の中には、(a)-(g)のうち複数の意味を表すものもあれば、特定の 1 つを表すものもあるが、一部の例外を除けば、ほとんどが(a)の「語基の表す行為が行われる方法」

という意味を含む。また、前項で扱った動的な状況を表す自動詞に *paN-*が付接した形も、この種の意味を表すことが多い。

ここでは、このような名詞(方法を現す名詞)の派生をこの接辞本来の機能であると仮定してその他の意味について考えてみよう。

語基が、動作の対象の状態や位置の変化を想定しやすい動詞である場合は、派生形の名詞は(a)-(d)のうち複数の意味を表すことが多い。以下にいくつか例を挙げる。

- pangejét* 「縫い方(a)、縫い目(b)(c)」 < *jét* 「縫う」  
*pagerék* 「揺らす方法(a)、揺らされた痕跡(b)、揺らされたもの(c)」 < *gerék* 「揺らす」  
*palanyak* 「踏む方法(a)、踏まれた跡(b)」 < *lanyak* 「踏む」  
*panèsèk* 「織り方(a)、織られた柄(モチーフ)(b)、織る道具(d)」 < *sèsèk* 「織る」

これは、このような場合、(a)の意味(方法)が、(b)-(d)の意味とそれぞれ不可分に結びついているからであると考えられる。

ただし、動作の対象の状態や位置の変化を想定しやすい動詞が語基である派生動詞の中にも、一部、その意味が、道具や対象などに限定されているものがある。

- ・ 道具を表すもの([d]の意味のみを表すもの)

*panyapu* 「ほうき」 < *sapu* 「掃く」  
*pamongka'* 「釜」 < *bongka'* 「炊く」

- ・ 対象を表すもの([c]の意味のみを表すもの)

*pakakan'* 「お菓子」 < *kakan'* 「食べる」

これらの動詞は、本来は「方法」から派生した、より広い意味範囲をカバーしていたのが、歴史的変化の過程で、動詞の表す状況からもっとも典型的に連想される特定の事物、すなわち道具や対象と結びついたものと考えられる。

また、語基が認知を表す動詞である場合は、認知の方法、および、認知の内容[e]を表すことが多い。これも、認知の方法は、その結果としての内容と不可分に結びついているからであろうと考えられる。

*pamikér* 「考える方法、意見」 < *pikér* 「考える」  
*pamili'* 「選択(の方法、結果)」 < *pili'* 「選ぶ」  
*patotang'* 「記憶」 < *totang'* 「思い出す、おぼえる」

一方、少数ではあるが、「語基の表す行為が行われる方法」と結び付けて考えにくい意味を表す派生名詞もある。例えば、以下のもののやりとりを表す動詞を語基とする名詞は[c]の「やりとりされるもの」のみを表す。

#### 4.2.1.9 名詞を派生する接頭辞 *sa-*

*pabèang* '贈り物' < *bèang* '与える'  
*panyólé* '借りたもの、貸したもの' < *sólé* '借りる'

また、いくつかの派生名詞は[f]の「語基の表す行為を習慣的に行う人」という意味のみを表す。

*pamaca* '本の虫、学識者' < *baca* '読む'  
*panyóró* '泥棒' < *sóró* '盗む'

これらの名詞の意味は、「語基の表す行為が行われる方法」を基本的な意味と考えることによっては説明できない。これらに関しては、他のケースとは異なる独自の意味変化が起こったということになる。

#### 2.1.9 名詞を派生する接頭辞 *sa-*

この接辞は名詞に付接し、「一つの～(名詞の指示物)」という意味を表す。

*sa-tau* '一人の人' < *tau* '人'  
*sa-bua* '一つの果物' < *bua* '果物'  
*sa-kali* '一度' < *kali* '回数'

また、*sa-*の付接した名詞は全体で、「～(名詞の指示物)全体」、「同じ～(名詞の指示物)」という意味を表す場合もある。

*sa-dèsa* '1つの村'「村全体」「同じ村」 < *dèsa* '村'  
*sa-balé* '1つの家'「家中」 < *balé* '家'  
*sanak* (< *sa+**anak*) '兄弟姉妹(同じ親の子、の意)」 < *anak* '子ども'

#### 2.1.10 副詞・接続詞を派生する接辞 *sa-*

接頭辞 *sa-*は、さまざまな要素に付接し、副詞、接続詞を形成する。この接頭辞による派生は数が少なく、また派生による統語的・意味変化の一般化も難しい。以下に例を示す。

・副詞が派生される例

*sa-puan* '昔' < *puan* '明後日'  
*sa-runtóng* (<*runtóng*) ときを表す副詞に先行し、「毎～」という意味を表す。

例：*sa-runtóng-anó* '毎日'、*sa-runtóng-jaga* '毎朝'

(語基 *runtóng* は *sa-*の付いた形と同様の「毎～」に相当する機能を持つ。例：

*runtóng-anó* '毎日'、*runtóng-jaga* '毎朝')

・接続詞が派生される例

*se-nó.poka* '～の前で'  
< *sa+**nó.poka* 'まだ～しない'(否定詞 *nó* の叙法辞 *po* (必要な条件) アスペク

#### 4.2.2 特に強い強勢の生起による派生

ト辞 *ka* (完了) との複合形。本章 2.5 で扱う。) )

*se-suda* '「～の後で」 < *sa-+suda* '「～し終える」(副詞)

#### 2.2 特に強い強勢の付加による派生

第2章 3.2 で述べたように、単語の中には特に強い強勢を持つものがある。

特に強い強勢を持たない語根に特に強い強勢を付加することによって、意味変化が起こる場合がある。以下に例を示す。

##### ・語基、派生語ともに動詞である場合

*maté* '死ぬ、死んでいる'      *maté'* '(魚、木などが)乾いている'

*soai* '女の'      *soai'* '妻'

*salaki* '男の'      *salaki'* '夫'

##### ・語基、派生語ともに名詞である場合

*kemang* '花'      *kemang'* '彫刻、絵などの装飾'

*godong* '葉'      *godong'* 'バナナの葉'

##### ・語基が名詞で動詞が派生される場合

語基の名詞と派生形の動詞の対応は主に次の二種類に分類できる。

##### (i) 名詞が道具を指し、動詞がそれを用いて他者に影響を与える動作を表す場合

*bingkóng* 'くわ'      *binkóng'* '耕す'

*médó* '薬'      *médó'* '治療する'

*rasa* '味、感覚'      *rasa'* '味わう、感じる'

##### (ii) 名詞が他動詞の表す動作によって出現するものを表す場合

*api* '火'      *api'* '火をつける(他動詞)、火をおこす(自動詞)'

*kranté* '話'      *kranté'* '～の話をする'

*tali* 'ひも、縄'      *tali'* '結ぶ、縛る'

*susu* '母乳'      *susu'* '母乳を吸う'

#### 2.3 語基と派生語の語類の対応と統語的対応

以下の部分ではこれまで扱ってきた派生のうち、語基と派生語の間で明確な統語的機能の差異が見られるものに着目して整理する。(次項 2.4 で扱う重複による派生に関しては、語基と派生語の間で顕著な統語的差異は見られない。)

このような派生には、語類を変えるものと変えないものがある。それぞれに分けて述べる。(以下に示す参照箇所はいずれも本章の中の節番号である。)

##### [A] 語類を変えるもの

##### (i) 名詞から自動詞の派生

鼻音接頭辞 *N*-によるもの (2.1.2)、接頭辞 *bar*-によるもの (2.1.3)、*ka*-によるもの (2.1.4) の三種類が確認されている。このうち、鼻音接頭辞 *N*-によるもの、接頭辞 *ka*-によるものは

それぞれ以下の数例ずつしか確認されていない。また、確認されている複数の例に共通する意味的な対応を抽出することも難しそうである。

・鼻音接頭辞による派生

*ngentén* 「ひざまづく」 < *entén* 「ひざ」  
*ngentét* 「おならをする」 < *entét* 「おなら」  
*nyurat* 「手紙を書く」 < *surat* 「手紙」

・ *ka-*による派生

*kangangén* 「湿気ている」 < *angén* 「風」  
*kamomang* 「浮かぶ」 < *momang* 「うき」  
*katités* 「したたる」 < *tités* 「水滴」

一方、接頭辞 *bar-*によるものは数多く確認されており、語根と派生語との対応もある程度規則的である。(詳細は 2.1.3 を参照のこと)

*ba-kemang* 「花が咲く」 < *kemang* 「花」  
*ba-keban* 「畑を耕作する、開拓する」 < *keban* 「畑」  
*ba-sekola* 「在学中である」 < *sekola* 「学校」  
*ba-tutér* 「物語を語る」 < *tutér* 「物語」  
*bar-anak* 「子どもがいる」 < *anak* 「子ども」

名詞からの自動詞の派生は、少なくとも共時的に規則性を持って行われるものとしては、*bar-*による派生プロセスが独占的に担っているといえる。

(ii) 名詞から他動詞の派生

接頭辞 *sa-*によるもの(2.1.1)と強い強勢の付加によるもの(2.2)がある。いずれも語基となる名詞が限られている上に、意味的に厳密な規則的な対応が見られるプロセスではない。

この二つのプロセスは、語基の名詞と派生動詞の間の意味的対応のパターンの傾向が異なる。接頭辞 *sa-*による派生の場合は、派生形他動詞が、語基の名詞の表す事物を対象に伝達する、あるいは付与するという意味を表す(例: *tutér* 「話」 > *sa-tutér* 「話す、伝える」) というパターンを示すことが多い。強い強勢の付加による派生においては、[1] 語基の名詞が道具を指し、動詞がそれを用いて他者に影響を与える動作を表す場合(例: *bingkóng* 「くわ」 > *bingkóng'* 「くわで耕す」)、または、[2] 語基の名詞が他動詞の表す動作によって出現するものを表す場合が多い。(この対応は、1.1 で扱った同じ語根が名詞としても他動詞としても用いられる場合に見られる対応と類似している。)

(iii) 動詞から名詞の派生

接頭辞 *paN-*によるもの(2.1.7)と、接頭辞 *ka-*によるもの(2.1.6)がある。このうち、接頭辞

*ka-*による派生は数が極端に少なく(データ中四例しか確認されていない)。また、その四例に共通する対応を見いだすことも難しい。

*ka-tokal* 「居場所」 < *tokal* 「座る」  
*kanadi* 「職業、地位」 < *dadi* 「～になる」  
*ka-telas* 「生計手段」 < *telas* 「生きる」  
*kamutar* 「領地」 < *putar* 「回転させる」

一方、*paN-*による派生に関してはある程度の規則的な対応がみられ、動詞語根からの名詞の派生は、共時的には *paN-*が独占的に担っていると言えそうである。語基の動詞が状態を表す場合は、派生形の名詞はその状態を実現するための道具や手段を表す。語基の動詞が動作を表す場合は派生形の名詞はその動作の方法、および、そこから派生するさまざまな意味(道具、結果、対象など)を表す。

#### (iv) 自動詞から他動詞の派生

接頭辞 *sa-*によるもの(2.1.1)がある。派生形の動詞は、語基の自動詞の表す動作を動作の対象に行わせるという意味を表す。

一般に、自動詞が他動詞化される場合、その意味的、統語的対応には次の二種類がありうる。

- ・自動詞の動作主が、他動詞の動作の対象に相当するもの(使役)
- ・自動詞の動作主が、他動詞の動作主に相当するもの(いわゆるアプリカティブ)

この言語における他動詞化接辞は、この接頭辞 *sa-*のみで、既に述べたように、この接辞は前者のパターンの他動詞化を行う。近隣の言語(インドネシア語、バリ語)には、後者のパターンに対応を示す他動詞を形成する接辞があるが、このタイプの接辞はこの言語にはみられない。

#### (v) 他動詞から自動詞の派生

鼻音接頭辞によるもの(2.1.2)、接頭辞 *bar-*によるもの(2.1.3)、接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-*によるもの(2.1.4)が確認されている。それぞれの項で述べたように、派生形の自動詞のうち、接頭辞 *bar-*による派生語と鼻音接頭辞 *N-*による派生語は主体自身に内在する力によって主体の身に起きる状況を表し、接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-*による派生は主体の制御によらない力によって主体の身に引き起こされる状況を表す。

例：*be-rari'* 「走る」、*nguléng (N-guléng)* 「横たわる」、*kasèok* 「水が流れる」

それぞれの項で述べたように、他動詞と派生形の自動詞の統語的対応には次の三種類に分類される。

- [1] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語と目的語の両方に意味的に対応するタイプ (いわゆる再帰タイプ)
- [2] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の主語に意味的に対応するタイプ (いわゆる逆受動タイプ)
- [3] 派生形の自動詞の文の主語が語基の他動詞の文の目的語に意味的に対応するタイプ (いわゆる受動タイプ)

接頭辞 *bar-* による派生の場合と鼻音接頭辞による派生の場合、語基によって [1][2][3] の三種類すべての対応がありうる。一方、接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-* による派生の場合、語基によって [2][3] の対応がありうる。

接頭辞 *bar-* による派生、鼻音接頭辞による派生においては、[2] のパターンに属するペアが数の上では多い。これは、二つの接辞に共通する、「主体自身に内在する力によって主体の身に起きる状況を表す自動詞を派生する」という機能を反映していると考えられる。このような条件を満たすのは、語基の他動詞の表す状況の関与者のうち、動作主を中心とした状況であることが多いだろうと考えられるからである。

また、*ka-/ geN<sup>2</sup>-* による派生においては、[3] のパターンに属するペアが数の上では多い。これは、この接辞の「主体の制御によらず主体の身に引き起こされる状況を表す動詞を派生する」という機能を反映していると考えられる。このような条件を満たすのは、語基の他動詞の表す状況の関与者のうち、動作の対象を中心とした状況であることが多いだろうと考えられるからである。

#### [B] 語類を変えないもの

##### (i) 自動詞から自動詞の派生

感覚や感情を表す自動詞を語基とする接頭辞 *ka-/ geN<sup>2</sup>-* による派生(2.1.4)が確認されている<sup>20</sup>。以下に例を挙げる。

- kaningén* 「寒くてつらい」 < *dingén* 「気候が寒い」  
*kamrang'* 「こわく感じる」 < *mrang'* 「ある対象がこわいという属性を持つ」  
*ka-nyaman* 「快く感じる」 < *nyaman* 「おいしい、楽な、快適な」  
*kang-ompa'* 「疲れている」 < *ompa'* 「疲れている」  
*gen-tomas* 「うるさく感じる」 < *tomas* 「うるさい」

この場合、語基と派生語では状況の中心として据えられている主体が異なる。語基の動詞は感覚や感情を引き起こす事態や事物を中心に事態を述べるのに用いられるのに対して、派生動詞は感覚や感情の受け手を中心に事態を述べるのに用いられる。

<sup>20</sup> *ka-/ geN<sup>2</sup>-* が付接しても語基の動詞と派生形の動詞の統語的機能が変わらないことがある。2.1.4 を参照されたい。



「その子はこの家の番をする。」

- (37)=(10) *ku=sange-ntok*                      *tódé=nan*      *léng*    *aku*.  
 1SG.LOW.AFFIX=make.wait    child=that    by    1SG.LOW  
 「私はその子を待機させる。」

(36)(37)の対応をみると、語基の動詞の文における主語が派生動詞の文における目的語に意味的に対応している。語基の動詞における目的語に相当する要素は派生動詞の文においては現れていない。このパターンの対応を示すのは、派生動詞が *sange-ntok* 「待機させる」のように、使役者が被使役者に直接働きかける状況を表す場合である。

## 2.4 重複

重複形には、単純な語根の重複形と、重複形に接辞が付接したものがある。

まず、単純な語根の重複の例を示す。聞き取り調査によれば、ほとんどすべての名詞語根、動詞語根からその重複形を形成することができる。ただし、自発的な発話における重複形の頻度はそれほど高くない。

- tentara-tentara* 「各軍隊」(名詞語根 *tentara* 「軍隊」の重複)  
*mólé-mólé* 「帰ったりする」(動詞語根 *mólé* 「帰る」の重複)

次に重複形に接辞が付接した例を示す。

- ba-rapé-rapé* 「おしゃべりをする」(拘束語根 *rapé* に接頭辞 *bar-*が付接)  
*sa-rua-rua* 「そのように」  
 (名詞 *rua* 「ようす、外見」に副詞を派生する接頭辞 *sa-*が付接)

語根の一部が重複される以下の例も確認されている。

- ・動詞 *dadara* 「(女性に関して)未婚の」  
 この単語は、拘束語根 *-dara* の一部が繰り返されたものである。(この語根に関しては、語根全体の重複形 *dara-dara* も確認されている。二つの形は同じ意味を表す。)
  - ・名詞 *setera-tera* 「文字」  
 この単語は名詞 *setera* 「文字」の一部が繰り返されたものである。(二つの形は同じ意味を表す。)
- 重複形の単語には、名詞、動詞、副詞がある。それぞれについて以下で述べる。

### 2.4.1 重複形の名詞

一般に、重複形の名詞は、名詞語根を語基とし、語基とほぼ同じ意味を表す。

例： *tódé-tódé* (*tódé* 「子ども」の重複形。)

*puén-puén* (*puén* 「木」の重複形。)

重複形の名詞は以下のような場合に用いられる。

[A] 語基の指示物が複数である場合

語基の指示物が複数である場合、常に重複形が用いられるというわけではない。重複形は、指示物が不特定多数である場合、または、さまざまな種類にわたる場合に用いられることが多いようである。

(38) *pangèran gagak=ta, ada' bawa gagak,*  
commander crow=this exist bring crow

*nan dadi penhubung' ké' tentara-tentara lén' Belanda=ta.*  
that become connector with army=army different Holland=this

「カラス司令官（とあだ名された司令官）は、カラスを連れていて、それがオランダの他の部隊との連絡係になっていた。」 [UC010]

(39) *peno' ilmu-ilmu Serian-Jelèka=ta,*  
many ability Sarian.Jaléka=this

*ka=ètè kapang diri, lalu=Sengkilang*  
PERF=take from 3.HIGH nobleman=Sangkilang

「スリアン・ジュレカはあの方、つまり、ラル・サンキラン公から得たたくさんの魔術を身に付けていた。」 [History 019]

(40) *datang, datang si. tapi nó si datang nonda' dengan.*  
come come MM but NEG MM come without company

*ada' dengan-dengan po.*  
exist company COND

「（自分の夫が結婚前に家に遊びに来たことがあるかとたずねられて）来た、来たよ。でも、友だちがいなければこなかった。連れがいないとね。」 [PA 059]

[B] 指示対象をはっきり限定せずに述べる場合

日本語の口語における「とか」「なんか」と似た内容を示す。「語基の指示対象に類するもの」という意味で例示的に用いられる場合もあれば、単にはっきり言い切らないニュアンスを表す場合もある。

(41) *ké antap-antap engka nyaman timong ké' antap*

#### 4.2.4 重複

with a kind of peas NEG.PERF tasty bamboo rice with a kind of beans  
「**antap**(緑豆の一種)なんかは、**antap**(緑豆の一種)のバンブーライスはおいしくない  
んだよね。」 [Timong 037]

- (42) *nó.soda' daru-daru lén'?*  
not.exist spice different  
「他に薬味**なんか**はないの?」 [Wajik032]

また、数量や分量、程度などを表す要素の重複形は、「約」「～程度」「～くらい」という内容を示す。(このような場合、数量を表す句の最後の要素が重複されることによって、句全体の表す内容が概数(概量)であることが示される。

- (例) *ta.jangka-jangka* 「大体このくらい」  
*ta.rua-rua* 「大体このような」  
(重複のない形 *ta.jangka*、*ta.rua* もそれぞれ「このくらい」「このような」という内容を表すが、重複形 *ta.rua-rua* は、だいたいこのような感じ、というあいまいな感じを表す。)

会話からの例を示す。

- (43) *dua kilo-kilo po gula.*  
two KG COND sugar  
「だいたい**2キロ**だよ、砂糖は。」 [Wajik 035]

2.4.2 重複形の動詞<sup>22</sup>

この項の冒頭で述べたように、重複形の中には、少数であるが、接辞 *ba-* + 語根の重複という形のものがある。これらの動詞はほとんどが対応する非重複形(語根を繰り返さない形)を持つ。この場合、重複形と非重複形はほとんど同じ意味を表す。

- *ba-rema-rema/ ba-rema* 「一緒に ~ する」
- *ba-langan-langan/ balangan* 「歩く」

重複形の多くは、動詞語根を語基とし、語基とほぼ同様の意味を表す。

重複形は、それが示す動作をはっきり限定せずに述べるときに用いられる。多くの場合は、当該の動作を一つの例としてそれに類する事柄を示唆するとき用いられるようである。(日本語の「~したりする」という形式と似たニュアンスを持つ。)

- (44) *dunóng', nó.soda' tu=datang bakedèk-bakedèk kó' balé*  
 before not.exist 1PL.AFFIX=come play to house  
 「昔はみんな(恋人の)家に遊びに行ったりはなかったの？」 [PA056]

- (45) *nó si ka=seréng apan-apan?*  
 NEG MM PERF=often chase  
 「しょっちゅう追いかけてたりはしてなかった？」 [PA142]

22 動詞が複数回繰り返され、動作の繰り返しを表すことがある。この場合はそれぞれの動詞が強勢を持って発話されるため、単語としての重複形が形成されているとはいえない。

- (a) *ao' tu=gér ta gér gér si*  
 yes 1PL.AFFIX=stir this stir stir MM  
*mé.lók ya=nó tu=gér apa anong motong.*  
 which.way CONS=not 1PL.AFFIX=stir because that burn  
 「うん。混ぜるよ。混ぜる混ぜる。どうして混ぜないなんてことがあるかね、こげちゃうもの。」 [wajik 017]

- (b) *karéng t=óló dulang, tu=nyal nyal nyal*  
 then 1PL.AFFIX=put tray 1PL.AFFIX=push push push  
*ké' godong=nan mé jangka ya=tebal*  
 with banana.leaf=that which limit CONS=thick  
*ya=tu=roa né, lamén ya=tu=samenan.*  
 CONS=1PL.AFFIX=like you.know if CONS=1PL.AFFIX=make.like.this  
 「それから、トレイの中に入れたら、望ましい厚さになるまで、バナナの葉で押し押し押し。もしそんなふうになりたいならね。」 [wajik 020]

同様の例が[wajik 012, 018, 026] [timong 032] [Pin Awak011, 019]にも見られる。

#### 4.2.4 重複

- (46) *no.monda'*            *bau lawong-lawong.*  
not.exist.anymore    can    speak  
「もうしゃべったりはできないんだよね。」 [PA164]

名詞の重複形の場合と同様、この種の動詞の場合も重複形と基本形では意味がほとんど変わらない場合が多い。重複形の使用例の多くは、上述のようなニュアンスを持つが、中には、そのようなニュアンスが指摘しにくいものもある。

- (47) *bau' ya=to' coba-coba nana.*  
can    CONS=know    try            over.there  
「(Edot) むこう(日本)で試すことができるようにね。」 [wajik 037]

- (48) *dadi beru' mólé-mólé', mólé-mólé' nya lalú=Kerékkuré=ta*  
then    after    go.home    go.home    3    TITLE=KerékKuré=this  
  
*ka=laló    bau    kayu*  
PERF=go    get    wood

「そして、薪を取りに行っていた、ラル・クレクレは帰ってくるやいなや....」  
[LK114]

#### 2.4.3 重複形の副詞

重複形の副詞には、拘束語根を語基とするものと、副詞を語基とするものがある。

##### [A] 拘束語根を語基とするもの

- kira-kira* 「大体」 (-*kira*)  
*maséng-maséng* 「めいめい」 (-*maséng*)  
*macam-macam* 「いろいろな」 (-*macam*)

##### [B] 副詞を語基とするもの

語基の副詞と同じ意味を表すものとそうでないものがある。

##### [A] 語基の副詞と同じ意味を表すもの

- kadang-kadang* ときどき (<*kadang* 「ときどき」)  
*mbang-mbang* 「突然」 (<*mbang* 「突然」)  
*ahér-ahér* とうとう、最後には (<*ahér* 「最後」)

##### [B] 語基の副詞と異なる意味を表すもの

語基の表す内容によってさまざまな対応を示す。

##### (i) ときを表す副詞が語基である場合

#### 4.2.4 重複

短い期間を表す以下の副詞は、期間の短さを強調する場合に用いられる。

*semenét-menét* 「一分だけ」 (< *se-menét* 「一分」)

*sengara-ngara* 「しばらくだけ」 (< *sengara* 「しばらく」)

時点を表す副詞の重複形は、ときをはっきり限定せず、「～ごろ」「～などに」というニュアンスを表すのに用いられる。

*rawi-rawi* 「夕方ごろ」

*magrèb-magrèb* 「日没ごろ」

*tó-tó'* 「近頃、今時」

(ii) 疑問を表す語が語基である場合

疑問を表す副詞の重複形は、不特定の対象を表す<sup>23</sup>。

*pidan-pidan* 「いつでも」 (< *pidan* 「いつ」)

*pida-pida* 「いくらかの」 (< *pida* 「いくつ」)

*kuda-kuda'* 「どうにかして」 (< *kuda'* 「なぜ」)

(iii) その他

(i)(ii)の他に以下のような副詞の重複形がある。語基と派生語の意味的対応はさまざまで、一般化は難しい。

*paléng-paléng* 「最高でも、多くて」 (< *paléng* 「最も～である」)

*terés-terés* 「連続して」 (< *terés* 「そして(接続詞)」 「間もなく(副詞)」)

*mèsa-mèsa'* 「一人ぼっちで」 (< *mèsa'* 「一人で」)

*mula-mula* 「最初は」 (< *mula* 「はじめる」)

*laó-laó'* 「ゆっくりと、おだやかに」 (< *laó'* 「遅く」)

#### 2.5 複合

複数の単語や語根でも接辞でもない要素が一つの統語的単位を形成する際、不規則な形態の対応を示す場合や個々の要素の意味からは予測できない意味をあらわす場合がある。本稿ではこの種の要素を複合語と呼ぶことにする。複合語の中には、一般的な単語と同様、全体が一つの強勢を持つ場合と、個々の形態素が固有の強勢を保ち、複数の強勢を持つものがある。以下の部分では、この二つを区別するために、強勢の単位を形成する場合は形態素間に=を入れて表示し、そうでない場合は形態素間にピリオドを入れて表示する。

23 副詞に限らず、疑問を表す要素の重複形は不定の対象を指すのに用いられる。

*mé-mé* 「どちらでも」 (< 指示詞 *mé* 「どちら」)

*sai-sai* 「だれでも」 (< 名詞 *sai* 「だれ」)

*apa-apa* 「なんでも」 (< 名詞 *apa* 「何」)

## 2.5.1 名詞と修飾成分が形成する複合語

用言または名詞が名詞を修飾する場合、全体が個々の構成要素の意味からは予測できない意味を表す場合がある。

- (例) *ai.mata*  
*water.eye* 「涙(lit.目の水)」  
*tau=loka'*  
*person=old* 「老人」または「両親」  
*tau=rango'*  
*person=big* 「(体の)大きい人」または「偉人、地位のある人」

上の *tau=loka'* と *tau=rango'* の訳に示したように、同じ要素が、名詞の指示物と修飾要素の意味から単純に予測できるような意味とそうでない意味の両方を表す場合がある。

## 2.5.2 指示詞を含む複合語

この言語には、場面指示に用いられる要素として *ta*(近称「これ」)、*tó'*(中称「それ」)、*nan*(中称「それ」)、*ana*(遠称「あれ」)、*mé*(不確定「どの」)の5つがある。(これらの要素を指示詞と呼ぶ。それぞれの機能については、7.2で述べる。)

指示詞が名詞化辞、前置詞と結びついた場合、元の形からは予測できない形が現れる場合がある。そのような場合を[1]-[3]に挙げた。

- [1] 名詞化辞 *adè* の縮約形 *dè* に後続して名詞句を形成する場合(例：*dè=ta* 「この」)  
 [2] 方向を表す前置詞 *kó* に後続する場合(例：*kó=ta* 「ここへ」)  
 [3] 場所を表す鼻音前置詞に後続する場合(例：*n=ta* 「ここで」)

以下の表では、指示詞[1]-[3]の環境に現れる形をすべて示し、そのうち、不規則な形が観察されるものは太字で示した。

表 4-1 指示詞が形成する複合語

	<i>ta</i> (近称)	<i>tó'</i> (中称)	<i>nan</i> (中称)	<i>ana</i> (遠称)	<i>mé</i> (不特定称)
[1]	<i>dè-ta</i> この	<i>dè-tó'</i> その	<b><i>dèan</i></b> ( <i>&lt;dè+nan</i> ) その	<b><i>dèna</i></b> ( <i>&lt;dè+ana</i> ) あの	<i>dè-mé</i> どの
[2]	<i>kó-ta</i> ここへ	<i>kó-tó'</i> そこへ	<i>kó-nan</i> そこへ	<b><i>kóna</i></b> ( <i>&lt;kó+ana</i> ) むこうへ	<i>kó-mé</i> どこへ
[3]	<i>n-ta</i> ここで	<i>n-tó'</i> そこで	<b><i>ninan</i></b> ( <i>&lt;N+nan</i> ) そこで	<b><i>nana</i></b> ( <i>&lt;N+ana</i> ) むこうで	--

2.5.3 否定詞 *nó* を含む複合形

述部の構成要素のうち、否定詞 *nó* と完了を表すアスペクト辞 *ka* または叙法辞 *si, mo, po*

は、以下のような複合形を形成する。いくつかの場合は不規則な形が観察される。

表 4-2 否定詞 *nó* を含む複合形

<i>nó+si</i>	<i>nó.si</i> <i>nó</i> の表す状況の強調
<i>nó+mo</i>	<i>nó.mó</i> 「もはや～しない」
<i>nó+po</i>	<i>nó.po</i> (未然)「まだ～しない」
<i>nó+ka</i>	<i>nongka</i> または <i>engka</i> (i)過去の動作の否定 (ii)状態の否定
<i>nó+si+ka</i> <sup>24</sup>	<i>nó.soka</i> <i>nongka</i> の表す状況の強調
<i>nó+mo+ka</i>	<i>nó.mongka</i> 「もはや～しなかった」
<i>nó+po+ka</i>	<i>nó.poka</i> (未然)「まだ～していない」

また、否定詞 *nó* と自動詞 *ada'* 「～がある、いる」、叙法辞は以下のような複合形を構成する。

表 4-3 否定詞 *nó* と自動詞 *ada'* 「～がある、いる」の複合形

<i>nó+ada'</i>	<i>nonda'</i> 「～がない」
<i>nó+si+ada'</i>	<i>nó.soda'</i> ( <i>nonda'</i> の表す状況の強調)
<i>nó+mo+ada'</i>	<i>nó.monda'</i> 「もはや～ない」
<i>nó+po+ada'</i>	<i>nó.poda'</i> 「まだない」

表 4-2, 4-3 に示した形は単独で述部を形成する。また、不規則な形を取るものがある。さらにその多くが全体で個々の要素の意味から単純には予測できない意味を表す。(個々の形の意味、および、個々の形全体の意味とそれを形成する個々の形態素の意味の関係については、第 6 章、および第 7 章で扱う。) また、複合形のうち、*nó.poka* 「まだ～しない」は、全体で、副詞・接続詞を形成する接頭辞 *sa-*(2.1.9)の語基にもなる。(派生形の *sa-nó.poka* は「～する前に」という意味の接続詞として用いられる。)

24 聞き取り調査で得られた形は表に示した *nó.soka* であるが、テキストには規則的な形 *nó.si=ka* も確認されている。この二つの形の意味的違いは確認されておらず、方言による差である可能性もある。

#### 4.2.5 複合

これらの点から、これらの要素は複合語に近い性質を持つといえる<sup>25</sup>。ただし、これらの形のほとんどにおいて、否定詞*nó*は本来の強勢を保ったままで発音され、全体で強勢の単位を形成することがない。それゆえ、音声的には複数の要素として分析される。

---

25 スンバワ語話者もこれらの形を独立した単語であるととらえており、Sumarsonoらの辞書[Sumarsono他(1985)]も、個々の複合体を独立した見出し語として扱っている。

表 4-4 接頭辞 sa-+他動詞語根

表 4-4 : 他動詞に接頭辞 sa-が付接する場合

sa-が付接した形における?はその形の容認度について話者から明確な返答が得られなかったことを示す。

語根	語根の日本語訳	sa-が付接した形
ajak	誘う	?sang-ajak
angkét	持ち上げる	*sang-angkét
antat	連れて行く、持って行く	sang-antat 連れて行く、持って行く
baca	読む	?samaca, ?sa-baca
bau	手に入れる	*samau, *sa-bau
bawa	運ぶ	*samawa, *sa-bawa
beli	買う	*sameli, *sa-beli
beri'	好む	sameri' 人に(催眠術などで)何かを好きにならせる
bilén	置き去る	?samilén, ?sa-bilén
bisó'	洗う	*samisó', sa-bisó'
bolang	投げる、捨てる	samolang 捨てる
bongka'	炊く	?samongka', ?sa-bongka'
buka'	開ける	*samuka, *sa-buka
buya	探す、求める	*samuya, *sa-buya
bèang'	与える	*samèang', sa-bèang'
bètak	引く	*samètak, *sa-bètak
coba	試す	*sanyoba, *sa-coba
dadi	~になる	sanadi ~にする
dapat	手に入れる	sanapat 届ける
gambar	描く	*sangambar, *sa-gambar
ganti	交換する	sa-ganti 「交換する」
gantong'	かける	sangantong', sa-gantong' かける
garu'	邪魔する	?sanganu', ?sa-garu'
gentan	換える	*sangentan, *sa-gentan
gerik	振る	*sangerik, *sa-gerik
gigil	噛む	*sangigil, *sa-gigil
giléng	挽く	*sangiléng, *sa-giléng
gita'	見る	sa-gita' 見せる
goco	刺す	*sangoco, *sa-goco
gorèk	線を引く	*sangorèk, *sa-gorèk
hukóm'	罰する	*sang-(h)ukóm
ingo'	見る	sang-ingo 見せる
inóm	飲む	sang-inóm 飲ませる
isi'	入れる	sang-isi' 入れる

表 4-4 接頭辞 sa-+他動詞語根

itóng'	計算する、数える	*sang-itóng'
jagér	殴る	*sanyagér, *sa-jagér
jempóng'	飛び越える	?sanyempóng, ?sa-jempóng
jual	売る	*sanyual, *sa-jual
jét	縫う	*sange-jét
kakan'	食べる	*sa-kakan'
kali	掘る	*sangali, *sa-kali
katoan'	尋ねる	*sangatoan', *sa-katoan'
kela'	煮る	*sangela', *sa-kela'
kelèk	呼ぶ	*sangelèk, *sa-kelèk
kokèk	剥く	*sangokèk, *sa-kokèk
kubér	葬る	*sangubér, *sa-kubér
kukés	蒸す	*sangukés, *sa-kukés
kèngang'	使う	sa-kèngang' 服を着せる
lanyak	足の裏でける	*sa-lanyak
loat	薄切りにする	*sa-loat
lokèk	剥く	*sa-lokèk
lèla'	なめる	*sa-lèla
menong'	聞く	sa-menong' 聞かせる
momat	積む	*sa-momat
ntok	見張る、守る	sange-ntok 人、動物などをある場所に居させる
nti'	つかむ	sange-nti' 持たせる、渡す
osap	ぬぐう	*sangosap
palèntong	投げる	*samalèntong, *sa-palèntong
pamóng'	においをかく	sa-pamóng' においをかがせる
panang	傍観する	?samanang, ?sa-panang
panéng'	水浴させる	samanéng 水浴びさせる、水をかける
panto	(テレビ等を)みる	sa-panto 見せる
paték	飼う	*samaték, *sa-paték
perèksa	調べる	*samarèksa, *sa-parèksa
perés	マッサージする	*samerés, *sa-perés
pikér	考える	*samikér, *sa-pikér
pili'	選ぶ	sa-pili' 選ばせる
pina'	作る	*samina', *sa-pina'
popo	魔法をかける	sa-popo 魔法をかけさせる
popo'	洗濯する	*samopo', *sa-popo'
potong	布を型紙どおり切り抜く	?samotong, ?sa-potong
poyong	包む	*samoyong, *sa-poyong
pukél	殴る	*samukél, *sa-pukél

表 4-4 接頭辞 sa-+他動詞語根

putar	～の周囲をまわる	sa-putar 回転させる
pènok	のぞく	*samènok, *sa-pènok
péngkó'	(家畜、のりものなど)を 方向転換させる	saméngkó' 進路や方向を変える
rajang	薄切りにする	*sa-rajang
regam	つかむ	sa-regam 手につかませ る、渡す
rempak	踏みつける	*sa-rempak
remés	絞る	?sa-remés
rentas	洗う	*sa-rentas
roba	試す	*sa-roba
rék	踏む、足をのせる	*sange-rék
rés	磨く	*sange-rés
samóng	答える	*sanyamóng, *sa-samóng
sapu	掃く	*sanyapu, *sa-sapu
sat	つなく、結ぶ	?sare-sat, ?sange-sat,
sedia	準備する	*sanyedia, *sa-sedia
selam	潜水して～を取る	sanyelam 沈める,
sempét	送る	*sanyempét, sa-sempét
sepan	呼ぶ	?sanyepan, ?sa-sepan
seru	揚げる	*sanyeru, *sa-seru
sikat	ブラシで磨く	?sanyikat, ?sa-sikat
siong	煎る	*sanyiong, *sa-siong
sió'	隠す	*sanyió', *sa-sió'
sólé'	借りる	sanyólé' 貸す
sompo'	肩車する	? sanyompo', ?sa-sompo'
sua	追いかける	*sanyua, *sa-sua
suru'	命令する	*sanyuru', *sa-suru'
suróng	押す	*sanyuróng, *sa-suróng
sèsèk	織る	*sanèsèk, *sa-sèsèk
sét	噛む	*sange-sét
sóró	盗む	*sanyóró, sa-sóró
talat	埋める	sa-talat 埋める
tali'	結ぶ	? sanali, ?satali'
tanam	植える	*sananam, *sa-tanam
tari	待つ	san-tari 容赦する、残す
tebok	切る、割る	? sanebok, ?sa-tebok
telan'	飲み込む	sa-telan' ～に(to)のみこ ませる
telét	指差す、指示する	sanelét 指示する、指し 示す
tetak	切る	*sanetak, *sa-tetak
to'	知っている	senge-to' 知らせる
totang'	覚えている、思い出す	sa-totang' 思い出させる
tuja'	搗く	? sanuja', ?sa-tuja'

表 4-4 接頭辞 sa-+他動詞語根

tukar	交換する	sa-tukar 交換する
tulang	見る	*sanulang, *sa-tulang
tulés	書く	*sanulés, *sa-tulés
tulóng	助ける	*sanulóng, *sa-tulóng
tumpan'	見つける、取り戻す	*sanumpan', *sa-tumpan'
tunóng'	焼く	*sanunóng, sa-tunóng
turét	付いて行く	*sanurét, *sa-turét
tutóp	閉める	*sanutóp, *sa-tutóp
tèar	やりで刺す	?sanèar, ?sa-tèar
tèmpèl	貼る	*sanèmpèl, *satèmpèl
udét	たばこを吸う	sang-udét たばこを吸わせる(他人の口に入れるなどして)
ukér	測る	*sang-ukér
ulèng	開く	sang-ulèng 開ける
èjèk	あざける、からかう	*sang-èjèk
ènèng'	頼む、乞う	*sang-ènèng
été'	取る	sang-été' 結婚させる
óló'	置く	*sang-óló'
ósó	磨く	*sang-ósó

表 4-5 接頭辞 *N-*, *bar-*+他動詞語根表 4-5 他動詞に鼻音接頭辞 *N-*または、接頭辞 *bar-*が付接する場合

・話者に容認されない形には\*を付した。また、容認性に関して話者の判断が一定しなかった形には(\*)を付した。

・*N-*が付接した形のうち、命令文に用いられないものには#を付した。

語根	日本語訳	<i>N-</i> が付接した形	<i>bar-</i> が付接した形
ajak	誘う	#ng-ajak 誘う	bar-ajak 仕事などの募集を行う
angkét	持ち上げる	*ng-angkét	bar-angkét (大勢で)何かを運ぶ作業を行う
antat	連れて行く、持って行く	*ng-antat	bar-antat 連れて行く、持って行く
baca	読む	#maca 暗唱する	*ra-baca
bada'	伝える	*mada'	ramada' 伝える
bau	手に入れる	*mau	ra-bau 漁をする
bawa	運ぶ	mawa 荷物	*ra-bawa
beli	買う	#meli 買う	*ra-beli
beri'	好む	*meri'	*ra-beri'
bilén	置き去る	*milén	*rabilén
bisó'	洗う	*misó	ra-misó' トイレの後に お尻を洗う、自分の体を洗う
bolang	投げる、捨てる	#molang 投げる、捨てる(何かを無駄にするという意味で使うことが多い)	ra-bolang 捨てる
bongka'	炊く	#mongka' ご飯(米)を炊く	*ra-bongka
buka	開ける	*muka	ra-buka 断食の後で物を食べる
buya	探す、求める	*muya	ra-buya 生計の手段を探す
bèang'	与える	*mèang	ra-bèang' 気前よく与える。いつも与える
bètak	引く	*mètak	ra-bètak 引く、最後の息を引き取る
campér	混ぜる	*nyampér	ba-campér 混ぜる、混ぜている
coba	試す	#nyoba 試す	*ba-coba
dadi	~になる	*nadi	ba-dadi 広がる、大きくなる、増える
dagang'	売る	*nagang'	ba-dangang' 商売をする
gambar	描く	ngambar	ba-gambar 絵を描く
ganti	換える	*nganti	ba-ganti 交代する
garu'	邪魔する	*ngaru'	ba-garu' 人の邪魔をする、騒ぎを起こす

表 4-5 接頭辞 *N-*, *bar-*+他動詞語根

gentan	換える	*ngentan	ba-gentan 交代する
gerék	振る、揺らす	*ngerék	ba-gerék 振る、揺らす
gigél	噛む	#ngigél 噛んで放さない、噛み切れないものをずっと噛み続ける	ba-gigél 咀嚼する
giléng	挽く	*ngiléng	ba-giléng 挽く作業をする
gita'	見る	*ngita'	ba-gita' 見る
gorèk	線を引く	*ngorèk	ba-gorèk 線を引く
ingo'	見る	#ng-ingo' 見る	*bar-ingo'
inóm	飲む	ng-inóm 飲む	*bar-inóm
itóng'	計算する、数える	*ng-itóng'	bar-itóng' 勘定をする
jual	売る	*nyual	ba-jual 売る
jét	縫う	ngejét 縫う	*bare-jét
kakan'	食べる	mangan	ba-kakan' おやつなど食事以外のものを食べる
kali	掘る	#ngali (典型的には井戸や墓、用水など大きいものを)掘る	*ba-kali
kela'	煮る	(*ngela'	ba-kela' 沸騰する
kelèk	呼ぶ	*ngelèk	ba-kelèk 呼ぶ、叫ぶ
kokèk	剥く	#ngokèk 剥く	*ba-kokèk
kukés	蒸す	#ngukés 蒸す	*ba-kukés
kèlo	だます	#ngèlo だます	*ba-kèlo
kèngang'	使う	*ngèngang	ba-kèngang' 使う
lanyak	足の裏でける	#me-lanyak 足の裏でける	*ba-lanyak
loat	薄切りにする	#me-loat 薄切りにする	*ba-loat
lokèk	剥く	#me-lokèk 剥く	*ba-lokèk
lèla'	なめる	#me-lèla' なめる	*ba-lèla'
menong'(*penong')	聞く	*ngemenong'	ra-menong' 聞く
nti'	握る	#ngenti' 握る	bar-enti' 握っている、責任を取る
ntok	守る、見張る	*ngentok	barentok 見張る、ガードする
osap	ぬぐう	*ng-osap	*barosap
pamóng'	においをかく	#mamóng' 悪臭を放つ	ra-mamóng' ばれる
panang	傍観する	manang 立つ	*ra-panang
panéng'	水浴びをさせる	manéng' 水浴びをする	ra-panéng 水浴びをさせる
panto	(テレビ等を)みる	manto (テレビ等を)みる	*ra-panto
parku'	斧で切る	#marku' 斧で切る	*ra-parku'

表 4-5 接頭辞 *N-*, *bar-*+他動詞語根

patèk	飼う、面倒を見る	#matèk 飼う、面倒を見る	*ra-patèk
pelèntong	投げる	#melèntong 投げる	*ra-plèntong
perèksa	調べる	*merèksa	*ra-perèksa
perés	マッサージする	merés マッサージする	ra-perés マッサージする
pikér	考える	mikér 考える	*ra-pikér
pili'	選ぶ	mili' 上から落ちてきたたくさんの果実や木の葉などを取る	ramili' えり好みする
pina'	作る	#mina' 「性交する」	*ra-pina'
popo	魔法をかける	#mopo 魔法をかける	*ra-popo
popo'	洗濯する	mopo' 洗濯する	*ra-popo'
potong	布を型紙どおり切り抜く	*motong	*ra-potong
poyong	包む	#moyong 包む	*rapoyong
pukél	殴る	#mukél 殴る	*ra-pukél
putar	～の周囲をまわる	mutar 回転する	*ra-putar
pènok	のぞく	mènok のぞく	*ra-pènok
péngkó'	(家畜、のりものなど)を方向転換させる	méngkó' 自身の向きを変える	*ra-péngkó'
racén	毒を盛る	#me-racén 毒を盛る	*ba-racén
rempak	踏みつける	*merempak	ba-rempak (怒りなどのため)足をふみならず
rempók	何度も叩く	*ngerempók	barempók 争う
rentas	洗う	*merentas	barentas 洗う
rék	踏む、足をのせる	#(*)merék 脱穀するために米を踏む	barerek 踏む
sa-lés	出す	#nyalés 「出す」	*ba-sa-lés
sa-maté	殺す	*nyamaté	ba-jamaté、ba-samaté 人殺しをする
sampat	閉める	*nyampat	*basampat
samóng	答える	#nyamóng 口答える	ba-samóng 答える
sapu	掃く	nyapu 掃く	*ba-sapu
se-bo	冷ます	*nyebo	ba-sebo 朝食を取る
sedia	準備する	*nyedia	ba-sedia 準備をする
sempét	送る	#nyempét 送金する	*ba-sempét
s-entèk	持ち上げる	#nyentèk 持ち上げる	ba-sentèk 持ち上げる
seru	炒める	#nyeru 炒める	*ba-seru

表 4-5 接頭辞 *N-*, *bar-*+他動詞語根

sa-tama'	入れる	*nyatama'	ba-satama' 入れる
sikat	ブラシで磨く	#nyikat ブラシで磨く	*ba-sikat
siong	煎る	#nyiong 煎る	*ba-siong
sisér	髪をとく	#nyisér 髪をとく	ba-sisér
sió'	隠す	#nyió' 隠す	ba-sió' かくれる
suróng	押す	#nyuróng 押す	*ba-suróng
sepan	呼ぶ	nyepan 神様のことを考える	*ba-sepan
sèsèk	織る	nèsèk, nyèsèk 織る	*ba-sèsèk
sét	噛む	#ngesét 噛む	*baresét
sompo'	肩車する	nyompo' 肩車される	*basompo'
sólé'	借りる	#nyoló' 借りる (典型的には行事のため近所から必要な食器を借りる)	*ba-sólé'
sóró	盗む	#nyóró 盗む	*ba-sóró
talat	埋める	nalat 稲を植える、土の中に入れていく	*ba-talat
tanam	植える	#nanam 植える	*ba-tanam
tari	待つ	*nari	batari 待機する
tedéng	火にかける	*nedéng'	*ba-tedéng
telét	指差す、指示する	#nelét 指差す、指示する	*ba-telét
terima	受け取る	*nerima	*ba-terima
tetak	切る	#netak 型紙通り布を切り抜く	*ba-tetak
to'	知っている	*ngeto', *meto'	bare-to' 「知識を得る」
totang'	覚えている、思い出す	#notang' 思慕する	*ba-totang'
tuja'	搗く	nuja' 搗く	*ba-tuja'
tukar	交換する	#nukar 交換する	ba-tukar ものなどが入れ替わる
tulés	書く	nulés 書く	*ba-tulés
tulóng	助ける	#nulóng (近所の行事などを)手伝う	*ba-tulóng
tumpan'	見つける、取り戻す	#numpan' 探していた物を見つける	*ba-tumpan'
tunóng	焼く	#nunóng 焼き物をする	*ba-tunóng
turét	付いて行く	nurét 従う	ba-turét 人の言いなりになる、順番を守って歩く
tutóp	閉める	#(*)nutóp 閉める	*ba-tutóp
tèmpèl	貼る	nèmpèl くっついている	*batèmpèl
udét	たばこを吸う	ng-udét たばこを吸う	*bar-udét
ukér	測る	#(*)ng-ukér 測る	bar-ukér 測量をする
ulèng	開く	#ng-ulèng 開いている	bar-ulèng 一緒に服を脱いで互いの体を見せ

表 4-5 接頭辞 *N-*, *bar-*+他動詞語根

			合う、開く
èjèk	あざける、からかう	#ng-èjèk あざける、からかう	*bar-èjèk
ètè'	取る	#ng-ètè' 追い越す	bar-ètè' 結婚している
óló'	置く	*ng-óló'	bar-óló' 性交する
ósó	磨く	*ng-ósó	bar-ósó 自分の体を洗う

表 4-6 接頭辞 *paN-*→他動詞語根表 4-6 他動詞語根に接頭辞 *paN-*が付接する場合

ajak	誘う	par-ajak 誘う方法、誘われる人
antat	連れて行く、持って行く	parantat(行事の際に)人の家に持っていく物資
baca	読む	pamaca 知識のある人
bau	手に入れる	pabau (果物などを)摘んだ痕跡、摘むこと
bawa	運ぶ	pamawa 性格、特徴 *pabawa
beli	買う	pameli 買ったもの
beri'	好む	pameri' 趣味、好きなこと
bilén	置き去る	pamilén 立ち去る人が置いていったもの
bisó'	洗う	pamiso 洗いもの、洗ったあとの水
bolang	投げる、捨てる	pamolang 捨てたもの、捨て方
bongka'	炊く	pamongka お釜(炊く方法、炊いたもの、という意味にはならない)
buka'	開ける	*pamuka、*pabuka
buya	探す、求める	pamuya 仕事、探し物、探す方法
bèang'	与える	pamèang 贈り物
bètak	引く	pamètak、pabètak 引き方、引くこと
coba	試す	panyoba テスト、試験
dadi	～になる	*panadi
dapat	手に入れる	panapat 学問、知識
erés	磨く	parés 磨くもの、道具、磨く方法
èjèk	あざける、からかう	paèjèk 冗談、あざけり
ènèng'	頼む	pangènèng 依頼(頼み方、依頼の内容)
enti'	つかむ	(?) pangenti'
été'	取る	parété' 獲得されたものや人
gambar	描く	*panganbar
gantong''	かける	pagantong'、pangantong' かける場所、かけるもの、かける方法
garu'	邪魔する	*pagaru'、*pangaru'

表 4-6 接頭辞 PaN--+他動詞語根

gentan	換える	pagentan、 pagentan 弁償品
gerik	振る、揺らす	pagerik *pangerik 揺らされたもの、揺らされた痕跡、揺らす方法、揺らすこと
gigél	噛む	pagigél *pangigél 噛まれた痕跡、噛むこと、噛み方
giléng	挽く	pagiléng、 pangiléng
gita'	見る	pagita 想像、お告げ、見方、目付き
goco	刺す	pangoco、 pagoco(?) 刺された痕跡、刺す方法、刺す人
gorèk	線を引く	
hukóm'	罰する	*pang(h)ukóm'
ingo'	見る	pangigo 見る方法、見方、行為
inóm	飲む	panginóm 飲み方、いつも飲み物を飲みたがる人
itóng'	計算する、数える	paritóng' 計算、見込み、計算の方法
jagér	殴る	*panyagér、 *pajagér
jempóng'	飛び越える	panyempóng 飛ぶこと、飛ぶ方法
jual	売る	pajual 売る方法
jét	縫う	pangejét 縫い目、縫う方法
-lupa'	忘れる	pa-lupa' よく物忘れをする性質
kakan'	食べる	pakakan' お菓子(食べ方、食べる方法という意味にはならない)
kali	掘る	pengkali 土を掘るのに使われる道具の一種 *pangkali pakali(?)
katoan'	尋ねる	pakatoan' 質問(の方法、内容)
kela'	煮る	*pakela
kelèk	呼ぶ	pakelèk 呼び方、呼び声
kokèk	剥く	pangokèk いつも身体のどこかを搔いている人、搔き痕、搔き方
kubér	葬る	*pangubér、 pakubér
kukés	蒸す	pangukés 竹製の蒸し器

表 4-6 接頭辞 PaN--+他動詞語根

kèngang'	使う	pakèngang' 使う方法、衣装
lanyak	足の裏でける	palanyak 踏んだ跡、踏む方法
loat	薄切りにする	paloat 切った方法、切った跡、切られたもの
lokèk	剥く	palokèk 皮をむいた果物、皮のむき方
lèla'	なめる	palèla なめた跡、なめ方
momat	積む	*pamomat
ntok	見張る、守る	parentok 護衛の対象、護衛のやり方
osap	ぬぐう	pangosap 拭き方、ぬぐい方
óló'	置く	paróló' 置き方、置いたもの
ósó	磨く	parósó 磨く方法、磨いたもの
palèntong	投げる	*papalèntong、 *pamalèntong
pamóng'	においをかく	*papamóng. *pamamóng mamóng nya lengé「彼のにおいはひどい」
panang	傍観する	pamanang 立つ姿勢
panéng'	水浴させる	pamanéng 水浴びのし方、水浴びした結果
panto	(テレビ等を)みる	pamanto 観劇などが好きな人
paték	飼う	pamaték 飼育している動物、憑いている霊
peris	マッサージする	pamerès マッサージの方法、しつけの方法
perèksa	調べる	*pamarèksa、 *paparèksa
pikir	考える	pikér 考える方法、考え(意見)
pili'	選ぶ	pamili' 選択(結果、方法)
pina'	作る	pamina'型に入れて作られたもの(ケーキなど)
popo	魔法をかける	pamopo 魔術、魔術を描ける方法
popo'	洗濯する	pamopo'洗いもの(衣類)
potong	布を型紙どおり切り抜く	pamotong 切り抜かれた布
poyong	包む	pamoyong 包み(包んだもの)、包み方、包み紙(葉)

表 4-6 接頭辞 PaN--+他動詞語根

pukél	殴る	pamukél 叩く道具の一種(警棒状の木でできた棒) (叩く方法、行為という意味にはならない)
putar	～の周囲をまわる	pamutar 脱穀の道具 (刃のついた車輪で、それを回して脱穀を行う。) まわす方法
pènok	のぞく	pamènok 除く方法
péngkó'	(家畜、のりものなど)を方向転換させる	paméngkó' 方向を変える場所、方向の変え方
rajang	薄切りにする	parajang 切ったもの、切り方、切る道具(まれ)
regam	つかむ	paregam つかむ方法
rempak	踏みつける	parempak 踏み台、踏む方法、踏み方
remés	絞る	paremés 絞る方法、絞った結果の様子
rentas	洗う	parentas 洗いもの、洗う方法
roba	試す	*paroba
rék	踏む、足をのせる	parerék 踏む場所、踏まれたもの、踏まれた跡
sampèlèk	ぴしゃりと叩く	*panyampèlèk、 *pasampèlèk、 *pamèlèk、
samóng	答える	panyamóng 返事(返事の仕方、内容)
sapu	掃く	panyapu ほうき
sarusak	壊す	*panyarusak
sat	つなく、結ぶ	piresat 動物をつないで置く場所(木など)
sedia	準備する	*panyedia
selam	潜水して～を取る	panyelam 潜水が得意な人
sempét	送る	panyempét 送られてきたもの
sepan	呼ぶ	panyepan 発音、読み方
seru	揚げる	panyeru 揚げ物の道具、揚げ方、結果(揚げたもの)
sikat	ブラシで磨く	panyikat 磨いたもの、磨かれた跡、磨く方法
siong'	煎る	panyiong 炒る方法、道具、結果(炒ったもの)
sió'	隠す	panyió' 隠す方法、隠し場

表 4-6 接頭辞 PaN--+他動詞語根

		所
sólé'	借りる	panyólé' 借りたもの、貸したもの
sompo'	肩車する	panyompo' 肩車をすること、肩車の方法
sua	追いかける	*pasua、 panyua
suru'	命令する	panyuru' 命じられた人
suróng	押す	suróng 押す道具の一種 (稲を乾かすとき押して広げるのに使う道具)、押す方法
sèsèk	織る	panèsèk 織る道具、織り方(モチーフなど) 織られた布そのもの是指さない。
sét	噛む	piresét 噛まれた跡、噛む方法
sóró	盗む	panyóró 盗みが好き、あるいは得意な人(盗品、盗み方という意味にはならない)
talat	埋める	panalat 埋めた跡、埋めた結果
tali'	結ぶ	panali' 結ぶ方法、結んだ結果の様子(結び目)
tanam	植える	pananam 植えた跡、植えた結果
tari	待つ	*patari、 panari、 (?)pantari
tebok	切る、割る	panebok 切られて二つになったもの、切り方、切ったあと (道具という意味にはならない)
telét	指差す、指示する	panelét 指すための道具 (指示棒のようなもの)、指差す方法、やりかた pentelét 儀式などをするのによい日時の指示
tetak	切る	panetak 必要な分を切り取った残り、切り方、切る方法(切る道具は指さない)
to'	知っている	pengeto' 知識
totang'	覚えている、思い出す	patotang' 記憶
tuja'	搗く	panuja' 撞くための道具、撞き方、

表 4-6 接頭辞 PaN--+他動詞語根

		撞いた結果としてのもの
tukar	交換する	panukar 交換したもの、 弁償品
tulang	見る	panulang 推測、見立て
tulés	書く	*panulés、 pantulés、 patulés
tulóng	助ける	panulóng 行事などの 際、もって行く物資、援 助物資
tumpan'	見つける、取り戻す	panumpan' 職業、仕事
tunóng'	焼く	panunóng 焼いた結果、 焼き方
turét	付いて行く	panurt お付の人、常に持 ち歩く携行品
tutóp	閉める	panutóp ふた、(出し物な どで)最後のもの
tèar	やりで刺す	panèar やりを投げる方法
tèmpèl	貼る	panèmpèl 貼る方法、何 かを貼った痕跡、貼られ たもの(紙など)
udét	たばこを吸う	pangudét ヘビースモー カー
ukér	測る	pangukér 測り方、測っ た結果、測るのに使う道 具
ulèng	開く	parulèng 開け方